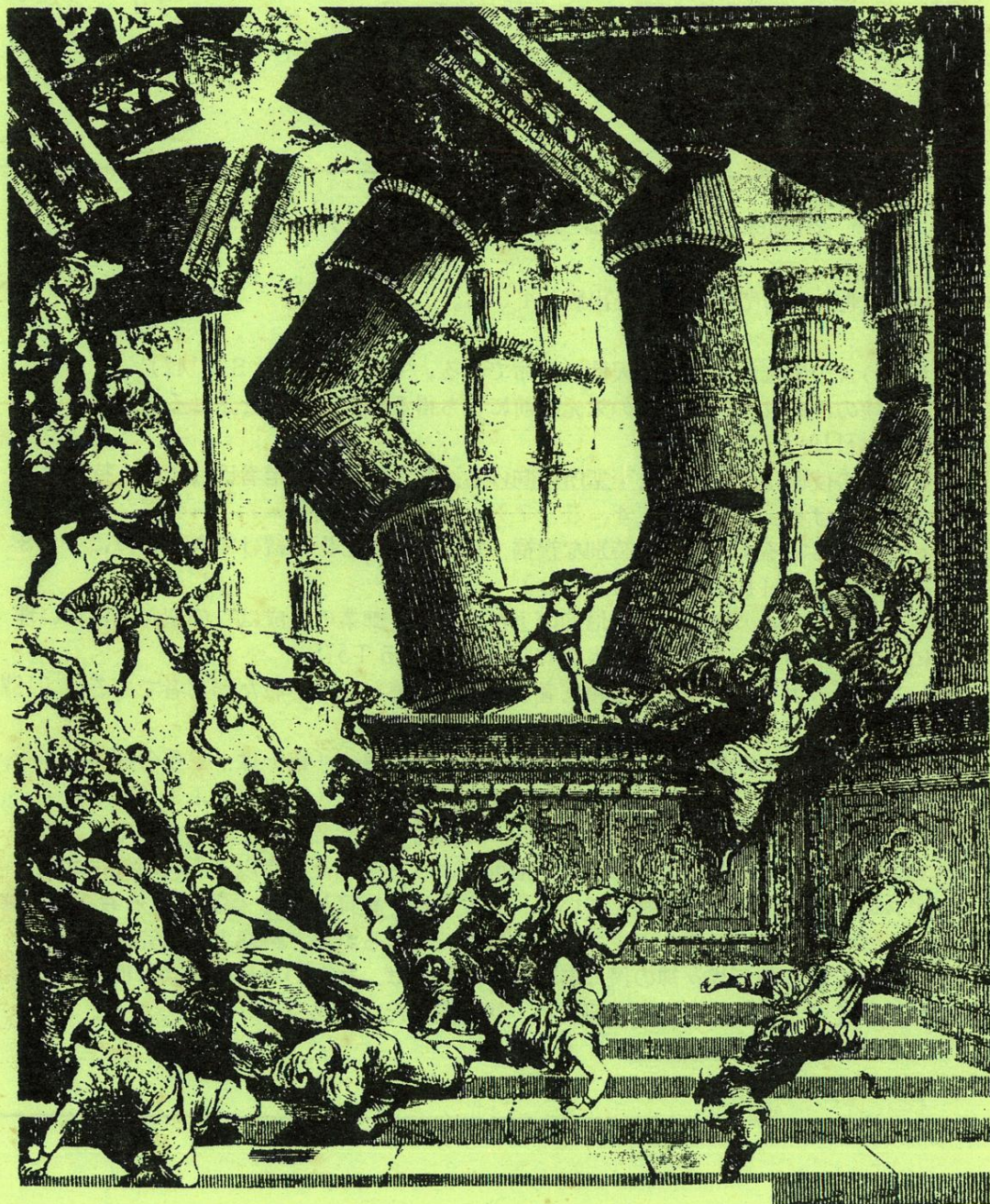




# Anchor

アンカー



聖書の中で、他のどの聖句よりも、再臨信仰の基礎であり、中心的な柱であったものは、「2千3百の夕と朝の間である。そして聖所は清られてその正しい状態に復する」という宣言であった。(ダニエル8:14) 大下119

第8号



## 目次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| アドベンチストの最重要教理. . . . .         | 1  |
| 破壊せよ、その基までも. . . . .           | 2  |
| 再臨信仰を破壊する企て. . . . .           | 5  |
| 生ける者のさばき. . . . .              | 17 |
| 質問と答え. . . . .                 | 31 |
| ダニエル11章-「新しい世界秩序」への激動. . . . . | 35 |
| オーパス・ディーローマ法王教のマフィア. . . . .   | 39 |
| 広告. . . . .                    | 40 |

### ◎◎◎◎◎アンカーの目的◎◎◎◎◎

我々は次のことを信じてアンカーを出版している。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使の使命である。(6T384, 2SM142)
2. 第三天使の使命は人々を再臨の栄光の前に立ち得る特別な備えをさせるものである。(9T98, 天140)
3. 第三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別なあがないを受ける。(初文414, 5, 7)
4. 我々は神のもくろまれたこの特別な祝福、特別な体験を拒み続けてきた。特に1888年以来。(RH8/26, 1890)
5. ダニエル8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、御業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々422, EV221, 5T575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(1SM36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性質、イエスの証(預言の霊)等である。(初文417, 1T300)
8. アンカーはリレーの最終走者の意味がる。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、140年以上も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大下182, 教育328)。信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨と御業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今日の義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのか研究し、共に備えたいと思う。

## アドベンチストの最も重要な二つの教理

### 1. それは何であるか？

1980年代に、アドベンチストの中で論議されていたものに、どんな二つの教理が含まれていたか？

1980年、4月に、テキサスのダラスで持たれた世界総会で、セブンスデー・アドベンチスト教団は、100年以上も保持してきた教理の立場を正式に再確認した。これらの教理のうちの二つが今や挑戦されているのである。それらは次の二つである。

① キリストは、1844年10月22日に天の聖所で特別な働きを開始された。その働きには調査審判が含まれている。

② 神の靈感を受けた使命者としてのエレン・G・ホワイトの権威。

### 2. なぜ、これらの教理がアドベンチストにとって重要か？

なぜ、この二つの教理がセブンスデー・アドベンチストにとって重要か？

調査審判を含む聖所の教理と、エレン・G・ホワイトが神の靈感を受けたという信条は、セブンスデー・アドベンチストにとってユニークなものである。もし、キリストが1844年に天において調査審判の働きを始められなかったとすれば、また、もしエレン・G・ホワイトが神の選ばれたメッセンジャーでないとすれば、セブンスデー・アドベンチストは、キリストの再臨に道を備えるために、神が起こした預言的な運動を特徴づけている二つの教えを失ってしまう。

実は、エレン・G・ホワイトの真実性は、アドベンチストの天の聖所とその清め、そして調査審判を含むその教理と密接にからみあっているのである。

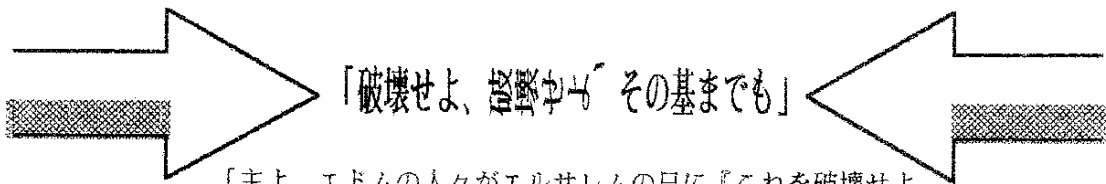
1891年、ある安息日の朝の説教で、レビュー・アンド・ヘラルドの編集長であったユライヤ・スミスは聖所の教理と預言の霊とが分離できないことを次のように強調した：

「大失望の数週間後、神は摂理のうちに、彼らのために何をなすだろうかと待っていた心の正直な者たちは、天の聖所という大問題に関して光を受けた。それが我々を光と真理の広い新しい分野に導いた。そして預言の霊もその時働き始めた。そして過去の真理を放棄することに対して教会に警告した。だから、聖所に関する光と預言の霊の賜物とが一致協力して、この民を更に増し加えられた光と真理の大きな分野に前進させ、人の子の来臨に備えさせるように導いたのであった」世界総会報知、3-18, 1891, 先駆者たちの証言、63。

エレン・ホワイトは、1906年に「聖所問題は我々が何年も保持してきたように正しく、真理として立っている」、そしてこの真理は「聖霊によって我々に啓示された」ものであることを証言した。(手紙50, 1906; Manuscript release #760, p23)。これらの光、また似たような言述に照らして、調査審判を拒むことは、エレン・ホワイトをも拒むことにつながるのである。

☆☆

「聖所とエレン・ホワイトに関する101の質問」ロバート・オルソン、ホワイト刊行会より



「主よ、エドムの人々がエルサレムの日に『これを破壊せよ、これを破壊せよ、その基までも破壊せよ』と言ったことを覚えて下さい。...  
破壊者であるバビロンの娘よ、あなたがわれらにしたことをあなたに仕返しする人は  
さいわいである」詩編137

「破壊者であるバビロンの娘」、エバンジェリカル（福音保守派・プロテスタント）は、1956年から今にいたるまで再臨信仰の土台を崩そうと試みてきた。それは外部からであった。しかし、我が教会の最も影響力のある神学者の一人、フォード博士による内部からの攻撃は大きな打撃を与えている。それがどれほどの影響を与えているかは、今も表面に現れつつあるが、やがて噴火山のようにその結果を赤裸々に表わすときに知られるであろう。ワルター・レー牧師による預言の霊に対する攻撃もそうである。これらの人々によって何が最も攻撃されているポイントであるかという点と：

- ① 1844年にイエスは至聖所に入られたという教理。
- ② イエスが至聖所に入られた理由は、神の民のために「最後の、特別なあがない」をなして、罪なき完全な品性に仕上げ、主の再臨に備えさせることであるという教理。それに1844年から調査審判が始まったことの教理。
- ③ エレン・G・ホワイトは各時代の預言者と同じ靈感を受けた預言者であるとの教え。

アメリカで、「ジョン・アンカバーグ ショー」というテレビ番組がある。アメリカ国民の前で、我が教会 代表のレビュー 一誌の編集長、ジョンソン博士と、かの有名なワルター・マーチン博士の論争が公開された。そして司会者のジョン・アンカバーグの背後にSDAから背教した牧師、長老たちが攻撃の矢を向けてきた。筆者のところにもそのビデオがある。それが何回かのシリーズで取り上げられた。（欲しい方は連絡して下さい） それは大争闘下の378頁に描かれている時のことを思わせられた。「嵐が迫ってくるとき、第三天使の使命を信じていると公言しているながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者がその信仰を捨てて反対の側に加わる。彼らは世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっている。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般受けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き惑わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。

今回は、①の問題を取り上げてみたい。サタンは1844年にイエスが至聖所に入られたという事実を崩すのに懸命になっている。これはまず、神学者、牧師の間になされつつある。イエスはA.D. 31年に復活し、昇天して、すぐ至聖所に入られた。「神のみ座の右につかれ」と書いてあるからであ

るといふ。破壊者らは言う「1844年にイエスは至聖所に入られたのではない。1844年に何も特別なことは起こらなかった。あがないは十字架で完成された。1844年にイエスが至聖所に移られ、最後のあがないをするなど、珍奇な教えだ。アドベンチストの神話だ。大失望後の作り話だ」と。これは一般キリスト教会の言っていることで、彼らはキリストが現在どこで何をしておられるかということには全く暗黒の中にいる。そればかりでなく、教会の内部からそんなことが聞かれるようになったのである。

原語のギリシャ語を知らなくても、聖書を注意深く研究する人は、イエスが昇天してすぐ、至聖所に入られたのではなく、天の聖所に入られたのであることは容易に分かる。

- ① 昇天後イエスは天の第一の部屋で奉仕しておられることが黙示録4章、5章、8章で分かる。
- ② ダニエル7章に、1260年の後に裁きがあり、天父も人の子も裁きの座に移られる。昇天後、まず背教のことが起こり、不法の者—ローマ法王教の大迫害の期間1260年の後に調査審判があるということが分かる。
- ③ ダニエル8章も同じく、暗黒時代の後に聖所が清められる事を教えている。それはレビ記16：30によると、大祭司が至聖所に入られるときである。それは1844年である。

だから、紀元31年に至聖所に入られたのではない。詳しい研究は後の日にまわすことにする。しかし、学者たちはヘブル書だけから、しかも、ギリシャ語からSDAの立場を証明しようと攻めるのである。

この柱が崩されたら、SDAは終わりだ。その存在の理由はない。他教派の神学者も、フォード博士も何を根拠に、イエスは昇天後すぐに至聖所に入られたと説くかということ、その最も強力な証拠としてヘブル9：8～14と6：19をもってくるのである。聖書解釈の原則を知っていればどんな平信徒も惑わされる必要はない。その原則とは、① 聖書全体の教えと照らし合わせてみる。この場合は、黙示録、レビ記、出エジプト記、ダニエル書等と。② 前後関係、文脈で解釈する。著者の言わんとするところは何かをつかむことである。。

パウロがヘブル書で言わんとしていることは、イエスが復活後、聖所のどの場所に入られたかということではなく、つまり聖所のどの部屋の問題でなく、この地上の聖所、犠牲、血、祭司職と比較して天の真の聖所、犠牲、血、祭司職がいかに優れているかを説いているのである。

いつ、イエスが至聖所に入られたのかということがどうしてそんなに問題にされ、攻撃されるのであろうか？なぜ、我々はそれを聖書から明確にとらえておく必要があるのだろうか？もし、紀元31年にすぐイエスは至聖所に入られたとするなら、1844年にイエスは至聖所に入られたというSDAの大黒柱が崩されてしまう。すると、至聖所に於ける、再臨前の調査審判と最後のあがないという大黒柱が崩れてSDAの存在の理由はなくなるのである。

しいて学者が、ヘブル書に限って、しかもヘブル9：8～14の原語から崩そうとするなら、原語から研究して見よう。再臨信仰がいかに堅固な土台に建てられているかを知ると神のみ名をたたえても、たたえても、たたえ尽くせないのである。神学者が原語を振り回して、学識のあるような格好をしても、それに目をくらまされて我々の信仰の土台を崩されてはならない。

「サタンはいつも、．．．指導者達の心を支配することによって、大衆を意のままに感化する

ことができるのである」大下361

そこで、今回ミラー兄弟は、ヘブル書に使われている聖所、至聖所の使い方を言語（ギリシャ語）からSDAの立場を擁護するために記事を書いてくれた。イエスは1844年に天の至聖所に入られた事実を説き明かしてくれる。よく、よく考えて、繰り返し読んで頂きたい。

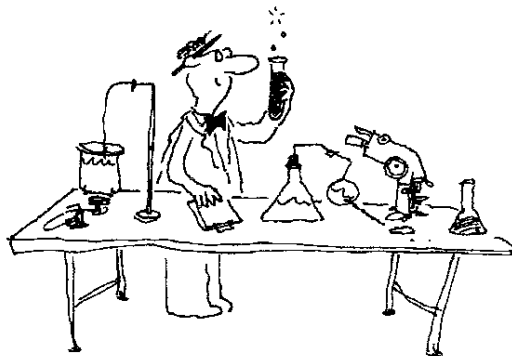
「知力は、．．．平凡なことばかりで占領されて、広大な崇高なテーマを除外すると退化し、衰弱してしまう。難しい問題と取り組み合うことがなく、重要な真理を理解しようと全力を出すことをしなければ、それはそのうちにほとんど成長する力を失ってしまうであろう」 5T24.

聖霊の助けによって、聖書全体の教えと、文脈から、また預言の霊の教えに沿って研究していただきたい。これは神学問題で平信徒と関係ないものであるとあきらめないで頂きたい。主の僕は「知的な信仰」を持つように勧告している。我々は一人一人、自分の信仰の根拠がどこにあるか問われる時が徹底的に問われる時が来る。その時混乱して信仰を捨てる結果になるよりは、今少々混乱して、取り組むことによって強くなっていた方がはるかに良いのではないだろうか？裁判所で、この世の知者たちの鋭い攻撃を浴びるときが来るであろう。その時のために備えようではないか。その時に混乱したのでは遅すぎるのである。

「もし我々の信仰の柱が調べられ、テストされて立つことができなければ、我々はそれを知るときである」TM107.

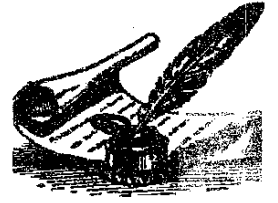


「愛する者たちよ。すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神からでたものであるかどうか、ためしなさい。多くの偽預言者が世に出てきているからである」 1ヨハネ4：1





## 再臨信仰を破壊する企て



デビッド・ミラー

サムソンが異教の宮を壊した時、彼はその中心的柱を倒すことによってそれをしたのであった。これらの柱に建物全体が寄りかかっており、それが倒れたとき、他のすべての物はもろともに倒れたのであった。エレン・G・ホワイトは我々のアドベンティズムにも柱があると言っている。

「聖書の中で、他のどの聖句よりも再臨信仰の基礎であり、中心的な柱であったものは、『2300の夕と朝の間である。そして聖所は清められてその正しい状態に復する』と言う宣言であった(ダニエル8:14)」 大下119。

### ● 崩そうとの企て ●

もしこのアドベンティズムの柱が倒れるなら、サムソンによって倒された異教の宮のようにすべて倒れるであろう。アドベンティズムはイエスが天の聖所の第一の部屋から至聖所に移られた1844年にこの宮の清めが始まったと教えてきた。イエスは紀元31年になくなり、天に上られて以来、我々の大祭司として聖所におられる。1800年以上にわたり、彼は天の宮の、聖所すなわち、第一の部屋におられたのである。イエスが紀元31年から1844年までの1800年間、聖所にでなく、至聖所におられたというのなら、1844年には至聖所に入られなかったことになる。これはアドベンティズムの柱を取り壊そうとする企てである。そういうことができるだろうか？そんな企てがあったのだろうか？

次に引用することは、ウォルター・マーチンという人によってもたれたミーティングについてである。これは1989年3月15日、カリフォルニアのフレズノで起こったことである。マーチン博士は、アドベンチストではないが、1950年代の半ばにSDA教会のリーダーのところに来て、SDAの教理はどんなものか、果たして彼らは本当のクリスチャンか、あるいはある種の非キリスト教的なカルト(熱狂的な宗教グループ)かどうかを決めようとしていた。(マーチン博士は、教派研究の権威者である)。そこで起こったすべてをこの短い記事の中で説明することはできない。次に引用することから分かることは、マーチン博士が我々の教団のリーダー達と話した結果、彼はアドベンティズムの柱を破壊したと思っていることである。30年以上経た後なお彼はこのように言ったのである。

### ● ウォルター・マーチンのコメント ●

「さて、私は1956年にワシントンのセブンスデー・アドベンチスト神学院において、数々の教理について検討したことについて、決して忘れることができない。私は『神学院から2、3のギリシャ語の学者達をここに呼んできてはどうでしょう。キャンロン博士はギリシャ語の学者だし、私もギリシャ語は読めます』と言った。ハイラム・エドソンやエレン・G・ホワイト、そして初期の再臨信仰者達が正しかったどうか、教団の重要な基礎がほんとうは神学的な誤りの上に築かれていないか検討して

みましょう』と言った。

彼らは『いいですよ』と言い、マードック博士とセオドア・ヘッペンストール博士等を送ってきた。彼らは二人ともすばらしいギリシャ語の学者であった。私はキャノン博士がこれらアドベンチストの方々と一緒に大きなテーブルを囲んで座っていた様子を決して忘れることができない。キャノン博士は『聖書を開けていただけるでしょうか。――私は今すぐそうしていただきたいのですが――ヘブル人への手紙です』と言った。

そして彼らは『よろしいですよ』と言って、ヘブル書9章を開いた。我々はみんなギリシャ語の新約聖書を出してヘブル書9章を開いた。キャノン博士は『私は、みなさんにヘブル9章11、12について注解していただきたいんです。あなたがたのまた、私達のどんな神学書も見ないことにしましょう。聖書だけです。聖書には何と書いてあるか読んでいただけますか』と言った。マードック博士は聖書を見、ヘッペンストール博士も見、キャノン博士は読んだ：

「しかし、キリストがすでに現れた祝福の大祭司として来られたとき、手で作られず、この世界に属さない、さらに大きく、完全な幕屋をとおり、かつ、山羊と子牛との血によらず、ご自身の血によって一度だけ聖所（Ta Hagia―タ ハギア）（ギリシャ語）に入られ、それによって永遠のあがないを全うされたのである」ヘブル9：11、12。

キャノン博士は、ギリシャ語でもう一度読まれた。そして、セブンスデー・アドベンチストのすべての牧師、宣教師の長であるRoy・A・アンダーソン博士の方を向いた。そして私は言った。『よろしい。この1節は、エレン・G・ホワイト、ハイラム・エドソン、そしてすべてのアドベンチズムの基礎と矛盾します。もし、よみがえられたイエスがご自分の血と我々のための永遠のあがないをもつて天にある聖所の第二の部屋に入られたなら、1844年の調査審判はありえない。それは神話である。．．．（著者により一部割愛）．．．とすると、調査審判というものはないことになる。だれも1844年以来、天で帳簿を調べている者はいないのである。なぜなら、イエスは復活のときにご自身の血を持って天そのものに入られたからである。すべては終わったのである。彼は、永遠のあがないを我々のために獲得されたのである」カリフォルニアのフレズノにおける、ウォルター・マーチンの講義。1989年3月15日。"Pilgrim's Rest WM 250", Beersheba Springs, TN 37305, U.S.Aより。

### ● エバンジェリカル（福音保守派）プロテスタントの主張 ●

私は、もう一つのポイントを指摘しておきたい。それは、ほとんどのエバンジェリカル・プロテスタントのクリスチャンは、あがないは、イエスが彼の生命を犠牲にされた十字架で完全に終わったと主張しているということである。彼らは、イエスが我々の大祭司として第二の部屋である至聖所で、1844年から始められた最後のあがないの働きを受け入れない。また彼らはイエスの再臨の直前、恩恵期間が終了する時に金の香炉を投げ落とす前にその働きが完了されなければならないことを受け入れないのである。こう信じているから彼らはセブンスデー・アドベンチストが支持してきた中心的な柱を否定するのである。

1956年に行なわれたマーチン博士による上記の記述は、1844年に始まったイエスの最後のあがないを信用できないものにしてしようとする、絶えざる企ての一部にすぎない。マーチン博士は、臨席した他の人達と、ヘブル9：11、12をギリシャ語で読み解釈したときにこのことをしたと思った。



彼は果たして確かに柱を倒すことができたのだろうか？

● 様々な訳を検討してみよう ●

英語の聖書のいろんな訳を見ると何かおかしいと思えるであろう。同じ聖句が、同じギリシャ語からあまりにも多く違ったように訳されている。

● ヘブル9：8 ●

ギリシャ語のヘブル9：8には「Toon Hagioon トン ハギオン」という言葉がある。欽定訳では「HOLIEST OF ALL--最も聖なる所、至聖所」と訳されている。リビング・バイブルでは「HOLY OF HOLIES--至聖所」、RSVでは「SANCTUARY--聖所」、NEW ENGLISH では「SANCTUARY--聖所」、フィリップ訳では「holy place (単数) 聖なる所」、そしてエルサレム聖書では「SANCTUARY--聖所」と訳されている。このように混乱が見られる。「SANCTUARY--聖所、HOLY PLACE-聖なる所、MOST HOLY PLACE-至聖所」の3つの全部とも正しいはずがない。

● ヘブル9：12 ●

ギリシャ語のヘブル書9：12は「Ta Hagia タ ハギア」とあるが、これは上に説明したようヘブル書9：8の「Toon Hagioon トン ハギオン」と同じ言葉である。ただここでの違いは文法上の「格」だけである。「格」は日本語にはないが、英語に時々でてくる。例えば、I (私は) と ME (私に)、や SHE (彼女は) と HER (彼女に) 等である。「Toon Hagioon」と「Ta Hagia」の両方とも、完詞付きの複数形である。この完詞は、英語の「The」(その) に似ている。ここでも、その訳には違いがあるのである。欽定訳では「HOLYPLACE」(聖なる所)、リビングバイブルでは「HOLY OF HOLIES」(至も聖なる所=至聖所)、RSVでは「HOLY PLACE」(聖なる所)、ニューイングリッシュでは「SANCTUARY」(聖所)、フィリップ訳では「HOLY PLACE」(聖なる所)、エルサレム聖書では「SANCTUARY」(聖所)と訳されている。

● 訳者の間で不一致である ●

8節と12節の言葉は複数形で先に完詞がついているギリシャ語の同じ言葉なので、例え、各々の訳が一致しなくても、それぞれの翻訳の中においては少なくとも一致していると我々は期待する。しかしそうではない。リビングバイブル、ニューイングリッシュ、フィリップ訳、エルサレム聖書では、一致している。しかし、欽定訳とRSVでは違っている。欽定訳では9：8を「HOLIEST OF ALL」(至聖所)と訳し、9：12では「HOLY PLACE」(聖なる所=聖所)と訳している。RSVでは、9：8は「SANCTUARY」(聖所)と訳し、9：12では「HOLY PLACE」(聖なる所=聖所)としている。

これらの訳また他の訳にもいかにこのように不一致があるかを続けて研究をすることができる。この不一致は異なる訳の中にあるだけでなく、上にも説明したように、同じ訳の中にもあるのである。スペースの関係上、読者のみなさんに膨大な研究で煩わせることはしたくない。上に提示したもので十分であろう。

● なぜ多くの違いがあるのか ●

1世紀前半のあるクリスチャン達は、ユダヤ的な慣例に執着しようとしたし、またあるものは、あえてそれらを無視した。例えば、割礼はその良い例である。私は、パウロは一世紀に、ヘブル書の中で説明でもって彼らが道からはずれないようにすることを試みたと思う。たぶん初代クリスチャンは、今日のクリスチャンよりもヘブル書を良く理解していた筈である。彼らの持っていたのはギリシャ語であったから、ギリシャ語を知っている彼らはそれが何を言っているかを理解したのである。しかし何世紀も経て、教会は墮落し、ローマの誤った宗教によって、ほとんどすべての正しいキリスト教の教えは失われた。ルターとその他の者は、聖書から幾らかの真理を持ち出したが、残りは再臨運動が起きるまでは持ち出されなかった。

キリストが1844年に至聖所に入られたという聖所の教理は、1844年にいたるまで現れてこなかったのである。そしてその後、それは徐々に発展していったのである。明らかにほとんどの聖書の訳者は再臨運動から出たものではないので、彼らは、聖所の真理に対して無知であったか、あるいはそれを訳するにあたって故意に事実を隠してしまったということである。

私は、これらの幾らかは故意に行なわれたという証拠があると信じるが、何の益にもならないので、この考えは避けることにしよう。その代わり、この混乱を終わらせる道を見つけたいと思う。もし我々がヘブル書を正しく理解する何らかの鍵を見つけることができるなら、そこから道は開けるのである。この問題を理解する簡単な「鍵」はあるのだろうか？

### ● ヘブル書9：1にパウロはパターンを提示する ●

鍵はある。パウロはそれを9：1節の初めに我々に与えてくれた。それを見てみよう。

「① さて初めの契約にも、礼拝についての様々な規定と、地上の聖所 (To Hagion-ト ハギオン) とがあった。②すなわち、まず幕屋がもうけられ、その前の場所には燭台と机と備えのパンとが置かれていた。これが聖所 (Ta Hagia-タ ハギア) と呼ばれた。③また第2の幕の後に、別の場所があり、それは至聖所 (Hagia Hagioon-ハギア ハギオン) と呼ばれた。④そこには金の香壇と全面金で覆われた契約の箱とが置かれ、その中にはマナの入っている金のつぼと、芽を出したアロンの杖と、契約の石板とが入れてあり」ヘブル9：1～4。

#### ① To Hagion-ト ハギオン

この節では、ギリシャ語の動詞で聖なるという動詞「hagion-ハギオン」というのが3つの型で出てくる。最初は、1節目に、前に冠詞のついた単数形が出てくる。それは聖所と至聖所を含む聖所一般を指している。「To Hagion-ト ハギオン」は単数形である。この冠詞付きの単数形は、すべてのヘブル書の中でここだけである。それは直訳すると「The Holy-聖なるもの、あるいは聖なる所」である。

#### ② Hagia-ハギア

次の2節に、第一の部屋、「holy place=聖なるところ、聖所」がある。我々はこれが、2つの聖なる所の中の第一の部屋であることが明確に分かる。というのはパウロは明らかにそれは、「その前の場所には燭台と机と備えのパンとが置かれて」いたと述べているからである。これは、「Hagia

「ハギア」という語の動詞で、複数で冠詞なしである。

### ③ Hagia Hagioon-ハギア ハギオン

最後に、「Holiest of All=最も聖なる所」、「Holy of Holies=至聖所」。パウロは確かにこの第2の部屋には金の香壇と契約の箱とマナの入っている金のつぼと芽を出したアロンの杖があると言っている。「Hagia Hagioon-ハギア ハギオン」は同じ言葉の2回の繰り返しから成っている。それは「Holies Holies (聖なる、聖なる)」と直訳される。2つの型であるのは、1つはHagia=ハギアの形容詞で、もう1つはHagioon=ハギオンの名詞である。2つとも複数形である。この2つとも複数形の型は、ヘブル書の中でこの1節だけである。

たとえ、他のギリシャ語の筆者が同じ言葉を使って、それらを違った意味に用いたとしても、私はパウロ自身によって記されたヘブル書のこの部分を、彼自身が使ったパターンを使って解釈した方がよほど良いと思う。

我々が「To Hagion-ト ハギオン」という単数形を見ると、それは聖所自体を意味していることが分かる。というのは、パウロは1節の中で、明確にそれを意味するように使っているからである。「Hagia-ハギア」という冠詞なしの複数形を見ると、我々はパウロが第1の部屋、「Holy Place=聖所、聖なる所」についていっていることが分かる。「Hagia Hagioon-ハギア ハギオン」というように2つの複数形が一緒になっているのを見ると、我々はパウロが第2の部屋、すなわち「holy of holies=聖なる所(複数)の聖なる所=至聖所」について語っているということを知らなければならない。

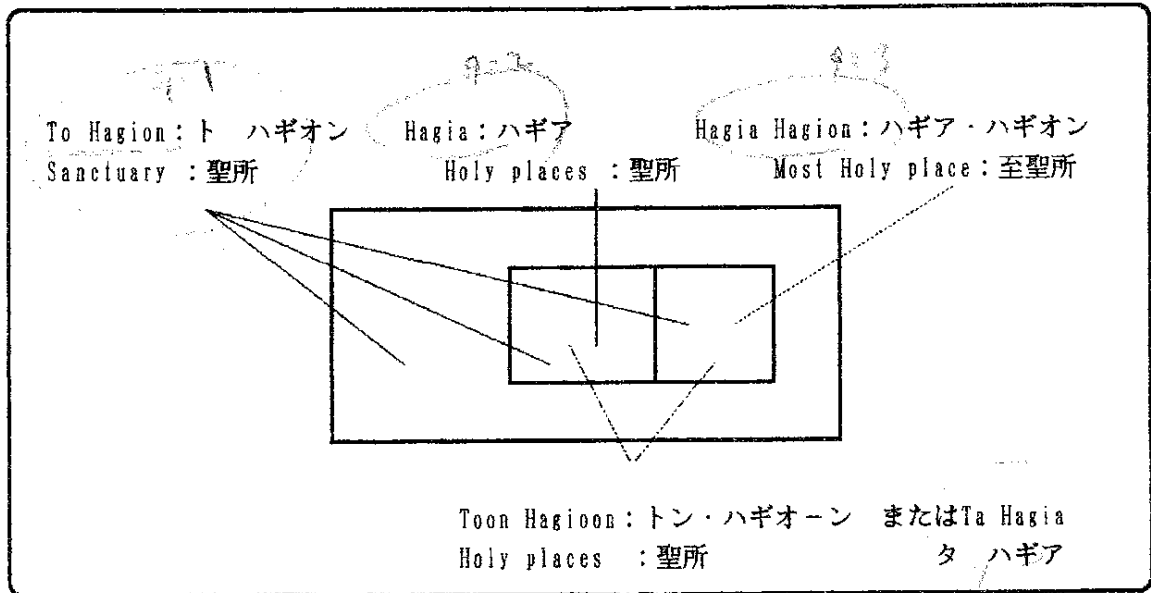
### ④ 第4番目の型 Toon Hagioon トン ハギオン

では、ヘブル書の中にある「Toon Hagioon-トン ハギオン」というそれ以外の型を見てみよう。それは数ヶ所で見られる。まずヘブル書8:2を見てみよう。それはパウロがヘブル9:2で、「holy place=聖なる所、聖所」について話すときに使う同じ複数形である。しかし、この第4の形は冠詞を含み「Toon Hagioon-トン ハギオン」となる。

「人間の手によらず、主によって設けられた真の幕屋なる聖所 (Toon Hagioon-トン ハギオン) で仕えておられる...」ヘブル8:2。

ここで我々は、冠詞付きの複数形「Toon Hagioon-トン ハギオン」というギリシャ語の言葉に出くわす。冠詞付きの複数形は、ヘブル書9:1から3の中のパウロのパターンには出てこない。これは第4の型である。字義通り訳すると「The Holies=聖なる所、聖所(複数)」である。パウロの9:1に使っているパターンには2つの聖なる所(holy places)は言われていないのである。しかしながら彼は、外庭と2つの部屋を含んだ内なる幕屋を含む全体としての聖所に言及している。9:1では、彼は単数形を使い、ヘブル書8:2のように複数形を使わなかった。それでは、ヘブル8:2でパウロが複数形(Ta Hagia-タ ハギア、あるいはToon Hagioon-トン ハギオン)を使うときは、(holy places=聖なる所(複数))を集散的に意味していると考えられる。その訳は「聖所=SANCTUARY(単数)」の代わりに、「HOLY PLACES=聖なる所(複数)」であるべきだ。

もし我々がこの訳を使うならば、紀元31年にイエスは「人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる (HOLY PLACES=聖なる所、聖所 (複数)) で仕えて」おられたことが分かる。(ヘブル8:2 訂正)



Ta Hagia (タ ハギア) - Toon Hagioon (トン ハギオーン)

次の1節に、私は欽定訳を、動詞の冠詞つき複数形、すなわち2つの複数形である「Ta Hagia - タ ハギア」と「Toon Hagioon - トン ハギオーン」の訳を矛盾しないように修正してみた。( ) はギリシャ語を示す。{ } は、オリジナルの欽定訳。< > はRSV、[ ] は訂正したもの、[ ] は冠詞つき複数形の日本語訳。この訂正形は "the holies" (聖なるものと "the holy places" (聖なる所) である。(各々複数形)

「それによって聖霊は前方の幕屋が存在している限り、(Toon Hagioon - トン ハギオーン: ギリシャ語) [the holy places: 聖所 = 聖なる所 (複数) 訂正形] に入る道はまだ開かれていないことを、明らかに示している。」ヘブル9:8。{holiest of all-至聖所、KJV}、<sanctuary=聖所、RSV}、[聖所: 日本語]。

「かつ、山羊と子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ (Ta Hagia: ギリシャ語)、[holy places = 聖所、聖なる所 (複数) 訂正形]、にはいられ、それによって永遠のあがないを全うされたのである」ヘブル9:12。{the holy place: KJV}、<the holy place: RSV}、[聖所: 日本語]。

「大祭司は、年ごとに、自分以外のものの血をたずさえて (Ta Hagia: ギリシャ語)、[the holy places: 聖所 = 聖なる所: 訂正形 (複数)]」。ヘブル9:25。{the holy place = 聖なる所 = 聖所: KJV}、<the holy place: 聖なる所 = 聖所: RSV}、[聖所: 日本語]。



「兄弟たちよ。こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく  
(Toon Hagioon:ギリシャ語) [the holy places:聖なる所=聖所  
(複数):訂正]にはいることができ」ヘブル10:19。{the holiest:至聖所:KJV}、  
(the sanctuary:聖所:RSV) [聖所:日本語]。

「なぜなら、大祭司によって罪のためにささげられる獣の血は、(Ta Hagia-タ  
ハギア:ギリシャ語)、[the holy places=聖なる所(複):訂正形]の中に携えて行か  
れるが、そのからだは、堂所の外でやかれてしまうからである」ヘブル13:11。  
{the sanctuary=聖所:KJV}、(the sanctuary=聖所:RSV)、[聖所:日本語]。

### ● 注意深く比べて見よ ●

上の節を少し時間をとって比べていただきたい。複数形で冠詞つきの同じギリシャ語の言葉を、オリジナルの欽定訳(KJV)、RSVや他の英語の訳は、違った英語の言葉に一致しない訳のしかたをしているのを見るであろう。しかし、複数形で冠詞つきの(Ta Hagia-タハギア)を「the holy places=聖なる所(複数)」とする一貫した翻訳は、それぞれの訳の中において一致した方法であると共に、セブンスデー・アドベンチストの教理とも一致するという意味ですべての聖句が理解できるのである。

それとヘブル13:11で、欽定訳の「the sanctuary=聖所」は正しいとは言えない。なぜなら、血は全体としての聖所、外庭に携えて行かれないからである。動物は聖所に携えて行かれ、外庭ではふられたのである。血は「holy places=聖なる所(複数)」に持って行かれた。日毎の犠牲の場合においては、血は第一の部屋に持って行かれたのである。年毎の場合は至聖所に持って行かれたのである。

### ● 更に強力な証拠 ●

イエスが紀元31年に至聖所にはいったとパウロが言っていないと信じる他の理由は、至聖所という言葉のギリシャ語「Hagia Hagioon-ハギアハギオン」が、ヘブル書に1箇所を除いては、どこにも言及されていないからである。それは、ヘブル書9:3でパウロが、契約の箱と、香壇と、金のつぼとアロンのつえがあるところであると言っているところである。「Hagia Hagion-ハギアハギオン」という言葉のコンビネーションは、ヘブル書の他のどの場所でも見当たらないのである。

### ● 日本語訳が最も矛盾がない ●

我々は、日本語訳(口語訳)が、これまで論じてきたすべての訳の中で、最も一貫性があることを見いだす。しかしながら問題はある。日本語訳では4つの型を2つの型にしている。この2つの型とは、「聖所」と「至聖所」である。上に記した第3の型の1つの場合を除いたすべての場合で「聖所」と訳されているのである。英語では、「holy of holies あるいは most holy」と正しく訳されている「Hagia Hagioon-ハギアハギオン」は、日本語で「至聖所」と正しく訳されている。これはヘブル書9:3にあり、第二の部屋とその器具が言及されているところである。

故に、冠詞つき単数、冠詞なしの複数、そして冠詞ありの複数はすべて「聖所」と訳されている。外

庭を含めた聖所全体を述べているときも、中の2つの部屋だけについて述べているときも、区別はないのである。

日本語においてこの区別がなされていないように見えるが、日本語訳では、数々の英語訳よりも実際は、より正確で、はるかに一貫性があるとわたしは思う。日本語訳は、セブンスデー・アドベンチストによって教えられている聖所の理解においても、より正しい訳で表現している。

## ● 幕の内に ●

再臨信仰に対する他の攻撃は、イエスが紀元31年に「幕の内」に入れられ、その幕は聖所と至聖所を隔てているものであるという考えから来ているのである。この考えは幕はただ一つしかないと仮定しているからである。この点を証明しようとして次の聖句が使われる。

「この望みは、わたしたちにとって、いわば魂を安全にし不動にする錨であり、かつ『幕の内』入り行かせるものである」ヘブル6：19。

第二の幕というものはあるのだろうか？9：3節をもう一度、見てみよう。

「第二の幕の後に別の場所があり、それは至聖所と呼ばれた」ヘブル9：3。

第二の幕がある。これほど確実なことはない。9：3節の第二の幕があるということは、第一の幕があることを前提としている。「第二の幕」は二つの聖なる所を分けている。ヘブル書6：19節の幕は、第一の幕であることは確かである。ヘブル書6：19節の幕を第一の幕と呼ぶことは必要でなかった。それはパウロが宛てて書いたヘブル人、すなわちユダヤ人達にとっては明白であった。

## ● あがないは十字架で完成した？ ●

先に述べたように、あがないは十字架上で終わり、イエスが天の聖所の至聖所で、現在、最後のあがないの働きをしておられるとはとんでもないと言う人達がいる。そうであろうか？もしそうであるなら、アドベンティズム、再臨信仰の柱が倒されたことになる。

日毎の聖所の奉仕を見てみよう。小羊が外庭でほふられ、その血が聖所まで持って行かれ、幕の前で注がれた。年毎の奉仕においても、外庭で山羊がほふられ、その血をとって、至聖所に持って行かれた。どちらの場合にしても我々は動物がほふられることによって、あがないが終ったと一瞬たりとも考えないであろう。動物は世の罪を取り除く神の小羊であるイエス・キリストを表わしていた。我々が聖所の象徴に従い、またイエスを小羊として、終わりまで象徴として支持していくなれば、我々はあがないはイエスが血を流したときに終わったのではないことを結論づけなければならない。彼はあがないを成し遂げるためにご自分の血を聖所に持って行かなければならなかった。そして彼はそうされたのである。

ヘブル書9：12節を読んでいただきたい。

「かつ、山羊と子牛との血によらず、ご自身の血によって、一度だけ「Ta Hagia-ta ハギア：ギリシャ語」〔the holy place聖なる所=聖所（単数）：欽定訳〕、〔the holy places（複数）聖なる所=聖所：訂正〕に入れられ、それによって永遠のあがないを全

うされたのである」 ヘブル9：12。

この節では、イエスは「holy places（複数）：聖なる所」に、地上の祭司がそうしたように、毎日、毎日、また毎年毎年入っていかれたのではないことを語っている。彼は、「一度だけ」「holy places；聖なる所（複）」に入れられたのである。彼は、日毎にあるいは年毎にまたもっと血を得るために出てこられる必要はなかったのである。彼の血は一度流されることで十分であった。彼はあがないの日のために血を用いるために再び死んで「holy place：聖なる所=聖所（単数）」から出てこられる必要はなかったのである。彼は一度だけ死なれたのである。

ヘブル9：12節は、その時イエスが（死なれたとき）入れられ、永遠のあがないを我々に与えたとは言っていない。それは、彼は「我々のために永遠の救いを獲得された」と言っているのである。「全うされた（having obtained）」と訳されているギリシャ語の言葉は、ほんとは「having found = 見つかった」という言葉である。この節が言っているのは、単純に、イエスがご自身の血を一度だけ持って聖なる所（holy place）に入って行かれ、そこでその血を（ご自分の生命の犠牲）、我々が罪を告白するときに、我々の罪のために適応される用意があるということなのである。この同じ血が、1844年に至聖所に入れられたときに用意され、待っているのである。

### ● マーチン博士は期待しすぎる ●

他の人達もそうであるが、マーチン氏は我々にイエスが紀元31年に聖なる所=聖所——第一と第二の部屋——に入れられ、そして同時に二つの部屋で彼の血を提供したと信じさせようとした。

彼は我々に、紀元31年に日毎の、また年毎の奉仕が共に融合し、それらを区別するものはなにもないと信じさせようとした。

ユダヤ人は、何年もの間、来る年も来る年も日毎の儀式を繰り返し行っていた。それぞれの年の終わりに違った犠牲、また違った手順があがないがなされたのである。マーチン氏は2つの奉仕の間には、何の区別もなく、あがないの日は、今日我々にとって何の意味もないと信じさせようとしたのである。

彼はユダヤ歴のはじめに行なわれる過ぎ越しの祭りが、ユダヤ歴の年の最後に行なわれるあがないの日と同時に、天で実際行なわれていたと信じさせようとした。私は、彼は無理なことをしようとしていると思う。

### ● なぜこれが重要なのか？ ●

エレン・G・ホワイトは、ある人々によってアドベンティズムの柱（複数）が倒されようとする事について告げている。彼女は、まず「一つの標柱も取り除かれてはならない。」と言われて、それから一つの間違った理論について非常にはっきりと言われた。

「敵は、まちがった理論を持ち込んでくる。それは聖所というものはないという教理である。」

「将来において、あらゆる種類の欺瞞が起こる。我々は堅固な基礎の上に立つべきである。我々は建物のために堅固な柱（複数）を必要とする。主が設置したもののから一つの標柱も取

り除いてはならない。敵は聖所はないという教理のような偽りの理論を持ち込んでくるであらう。これは、信仰から離れるポイントの一つである。主が50年にわたって与えられてきた真理によらないで、我々はどこに安全を見いだすであろうか？」EV224。

私は、イエスは、紀元31年に至聖所に入られたと私に言ったセブンスデー・アドベンチストの牧師を個人的に知っている。彼は、エレン・G・ホワイトは神の真の預言者ではないと言った。彼はいつか国際的な日曜休業令が出ることを疑っている。これら3つの信仰は、再臨運動の独特の柱である。

### ● 削除部分 ●

ウォルター・マーチンによる上の講演のある部分を除いてしまったところがあるので、その部分を付足したいと思う。マーチン氏が、アンダーソン、マードック、ヘッペンストールの3人のアドベンチストの代表者から受けた反応についての彼の意見に関してである。マーチンによるとアンダーソン、マードック、ヘッペンストールは皆、彼（マーチン）やキャンノンのヘブル書9：12の解釈に同意した。次がはぶいた部分である：

「アンダーソンは聖句を見て、そしてテッド・ヘッペンストールの方を向き、『ギリシャ語のテキストではそう言っているかい？テッド？』と言った。そして、テッド・ヘッペンストールはギリシャ語の新約聖書を見てから言った『その通りだ』。マードック博士も『そう言っている』と言った。

3人の代表者によって、このとおりの言葉が語られたのかどうか、また、3人が実際、マーチンのギリシャ語のテキストの解釈に同意したかどうかは、マーチンの言葉でしか知る術がない。1950年代に起こったことは、その時以来論議し続けられてきた。何が起こったかということに関して、くわしく知らない方々には、この記事では、時間とスペースが足りないために取り扱えないことを許していただきたい。私は過去25年間、このことについて学んできた自分の意見を述べることができるだけである。

### ● 積極的なアプローチ ●

私はその時以来、多くの我々の教団のリーダー達が、エレン・G・ホワイトが起こるであろうと警告してきたことをしてきていると思っている。我々は聖所の教理、特に至聖所と、1844年以来そこで何が行なわれてきたかということに関しての真理を手放しつつある。真理が失われつつあるということは、教会で偽りの教えによってなされるよりも、ただ第三天使の使命の研究を怠ることによってなされる方が大である。言い換えれば、怠慢は、より大きな敵である。

ある人々は、それは少しずつ変えることにより、教団の公式な出版物を巧みに操作することによって徐々に、ほとんど気付かれずになされていると信じている。このような質問に対して、論議を重ねることに時間を費やすことは何の解決にもならないと思っている。私は個人的にできる限り現代の真理を広める積極的な方を選びたいと思う。つまり、私が真理だと信じていることを提示し、できるだけ論争を避けることである。しかし、聖書研究者がどんな危険に対して気をつけなければならないかを知るために存在する問題を論じることは時々必要である。

「アンカー」は第三天使の使命、至聖所の経験を宣べ伝えるために捧げられている。それは最も重要な使命である。



「天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に救いの計画にとって欠くことのできないものである」大下222

「現代の真理がもられた書籍の出版と配布に時間をとろうではないか」 CWE 14。



(35 ページからの続き)

**質問 3** . 生ける者のさばきが日曜休業令から始まることがはっきりとどこかに書いてありますか？

答え：そういう言葉の使い方がされているところは、聖書にも証の書にもありません。しかし、その真理ははっきりしています。「三位一体」という言葉は聖書のどこにも見出すことができません。しかしその真理、思想は明らかです。「安息日は第7日目であるから、土曜日を安息日として守れ」と新約に書かれているところは見いだせません。再臨の前に「調査審判」があると書いてあるところはありません。「1844年に、天の聖所の至聖所にイエス・キリストは入れ『最後のあがない』をなさっている」という言葉そのものは聖書のどこにも書かれていません。しかし、これらは聖書を研究するものによって明瞭にされた、現代の大真理ではないでしょうか？

.....  
**証の書の引用文：** (31 ページ、質問1の参照)

1. 「救助のしるしが神の戒めを守る人たち、神の律法を敬う者たち、獣とその像を拒否するものたちの上に置かれるのである」 5 T 451, 452
2. 「各々のたましいにテストがやってくる時はそんなに遠くはない。獣の刻印が我々に強制されるであろう。世の要求に一步一步委ね、世の習慣と妥協してきた者は、ののしり、投獄の脅かし、死に委ねるよりは権力に委ねる方が、易しいことを知るであろう。戦いは神の戒めか人間の法律かである。その時、教会の中では金と屑とが分けられる。真の経験とそのまねやメッ主とがはっきり区別される。我々はその光輝を賞賛した多くの星が、そのとき闇に消え去る。豊かな穀物の打ち場としか見えなかったところから、もみがらが雲のように風に乗って運びさらわれるであろう。聖所の飾りだけを身につけて、キリストの義を着ていないものはみな自分自身の裸の恥を現すのである。実のない木は切り落とされるように、偽りの多くの兄弟が本物から区別されるその時、隠されていたものらが明らかにされ、キリストのみ旗のもとにホザナの隊列をつくるのである」 5 T 81
3. 「さばきのときは最も厳粛な期間である。その時主は、毒麦の中から己がものを集められる。同じ家族の一人一人も分かたれるのである。義なる者にはしるしがつけられる。...あるものが取り上げられ、彼の名が生命の書の中にとどめ置かれるとき、一方彼と交わっていたものが神からの永遠の離別のしるしを受けるのである」 TM 234, 235、

## 質問と答え(1)

1. フォード博士によるとヘブル9：8の「前方の幕屋＝初めの幕屋」は、聖所の第一の部屋で、9：9、10は「第一の部屋の働きに関する注解である」とする。9：8にあるギリシャ語「Ta Hagia; タ ハギア」は、欽定訳では「至聖所」と訳しているように、この言葉は両方の部屋を含むことは考えられないとする。つまり、彼はこの聖句を、第一の部屋は十字架以前の時代であり、第二の部屋は十字架以後の時代のイエスがおられるところを意味するというのであるが、正しくはないか？

答え：ある訳では、例えば、ニュー・インターナショナル訳等では、フォード博士の結論を支持するように思えるが、前後関係からそうはとれない。フィリップ訳、ローダーハム訳、ノックス訳、ニュー・イングリッシュ訳聖書でもそうしていない。9：8の比較は第一の部屋と第二の部屋の比較ではなく、また、それらが何を表わしているかを言っているのではなく、初めの契約、地上の聖所と天の聖所の比較をしているのである。9：8－10の文脈から、8節の「前方の幕屋＝初めの幕屋」は、全聖所のことを指しているのであって、聖所の第一の部屋だけではないことが分かる。

更に、フォードは、「Ta Hagia, タ ハギア」は、両方の部屋を意味することはあり得ないと固執していることは誤りである。なぜなら、ヘブル13：11に使われている「Ta Hagia, タ ハギア＝聖所」は、両方の部屋を含んでいることが明確に分かるからである。レビ4：13～21、16：15、27を参照。

ヘブル9：8は、紀元31年にキリストは、大祭司が地上の聖所の第二の部屋の働きで象徴される天の至聖所の働きを始められた事を教えているのではない。

－ロバート・オルソン、101の質問より－

2. 9：12に「やぎと子牛との血」の犠牲はあがないの日に捧げられた動物であったので、それはあがないの日のことを言っているのではないか？ そうなら、ご自身の血によって「一度だけ聖所に入られた」という聖所は至聖所に入られた事ではないか？

答え：これらの動物がこの日にのみに捧げられたのであれば、議論になるであろう。しかし、それらの動物は日毎の犠牲にも用いられたのである。レビ記4：14、23、民29章。  
9：13の「雌牛の灰」もそうである。あがないの日とは関係がない。民19：9。  
9：19～22にもモーセが幕屋の献堂にそれらを使ったことが書いてある。あがないの日とは関係なく使われたのである。

3. セブンスデー・アドベンチストの主張する1844年に「調査審判」が始まったことを聖書で証明できるか？

答え：ダニエル7：9、10、21、22、26を見ると、1260年の法王教による迫害期間が終わって後に起こることは明らかである。決してキリストの昇天後すぐ至聖所に入って裁きが始まったのではない。そしてキリストが「報いをたずさえてこられる」前である。マタイ13：47～50、22：1～14、2コリント5：10。



生ける者のさばき

みなさん、今日の午後の主題は、「生ける者のさばき」であります。

「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてきて、大声で言った、『神をおそれ、神に栄光を帰せよ。神のさばきの時が来たからである。天と地と海と水の源とを造られたかたを、伏し拝め』。黙示録14：6、7。

「さばきが神の家から始められる時がきた」。1ペテロ4：17。

この大いなる厳肅な働きは、1844年に死者から始まり100年以上も続けられてきました。まもなく生ける者のさばきに移らなければなりません。各時代の争闘下巻の225ページをお読みします。

「審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく――その時がいつかは誰も知らないが――生きている人々に移る。神の恐るべき目前で、我々の生涯が調査されねばならない」。

我々が瞑想し得る最も厳肅な主題はこのさばきの働きであります。そして「さばきが神の家から始められる時が来た」のであります。

私は3つの見出しのもとに話したいと思います。① 生ける者のさばきに対する備え；② 生ける者のさばきの経験；③ 生ける者のさばきにおける勝利であります。

さばきに備える

まず、生ける者のさばきの備えについてであります。古代イスラエルにおいては、大いなる危機が迫ってきたとき、全国にわたってラッパが吹きならされました。レビ記23章を見ると、あがないの日の前に、10日間もラッパが吹き続けられ、イスラエル人を大いなるあがないの日に備えさせたのであります。イスラエル人はそのラッパの音をききました。彼らは家を点検して、衣を洗い、家族のもとに帰り、すべてのものを整えたのであります。まだ罪を告白していない人たちは、聖所に来て、罪祭の頭において、その罪を聖所に移し、こうしてさばきの日に備えたのであります。このことは今日の我々に要求されていることを表わしているのであります。裁きの日になると、彼らは家族の者を集め、幼いもの達を集めたのです。彼らは仕事場から離れ、ビジネスを止めたのです。彼らは断食しました。彼らはこの最も厳肅な日に、大祭司が至聖所に入られる時に、身を悩ま

したのです。イザヤ40：33、34に、特に地球歴史のこの時のことについて次のように言われています。「荒野に主の道を備え、砂漠に、われわれの神のために、大路をまっすぐにせよ。もろもろの谷は高くせられ、もろもろの山と丘とは低くせられ、高低のある地は平らになり、険しいところは平地となる」。

昔、王が地方を旅するとき、定められた人があてがわれ、馬車の前に先だてて道を備え、険しいところは平らにし、間もなくお通りになる王のためにすべての必要な備えをしたのであります。この象徴が使われているのは調査審判に王の王であられるお方が現れる前に神の民が達しなければならぬ高さを表わしています。

同じメッセージがマラキ3章にあります。昨晚この点にふれましたが、もう一度見てみましょう。

「見よ、わたしはわが使者をつかわす。彼はわたしの前に道を備える。またあなたがたが求める所の主は、たちまちその宮に来る。見よ、あなたがたの喜ぶ契約の使者が来ると万軍の主が言われる。その来る日には、誰が耐え得よう。その現れる時には、誰が立ち得よう」

マラキ3：1、2。

主が生ける者のさばきに現れるときは最も厳粛な時で、我々は彼の前に出なければならぬのであります。主の前に道を備えるために、使者が先だてていかなければなりません。この大いなる裁きの日のために我々はどんな性質の備えをすべきでしょうか？ 現代のすべての神の民にとって最も重要な聖書のみ言葉、ヨエル2章を読んでみましょう。

「シオンでラッパを吹きならせ。断食を聖別し、聖会を招集し、民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳飲み子を集め、花婿をその家から呼び出し、花嫁をその部屋から呼び出せ。主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え、『主よ、あなたの民を許し、あなたの嗣業をもろもろの国民のうちに、そしりと笑いぐさにさせないでください。どうしてもろもろの国民に、『彼らの神はどこにいるか』と言わせてよいでしょうか』」

ヨエル2：15～17。

「シオンでラッパを吹きならせ」。古代イスラエルにおいて、彼らは字義通りに雄羊の角を吹きました。我々、神の民はあがないの日に、シオンでラッパを吹きならすという条件を満たすように言われています。今日吹きならさなければならぬラッパとは何でしょうか？ イザヤ58：1にこう書かれています。「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのように上げ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を示せ」

我々は今日恐るべき裁きのときに住んでいます。信仰によって大いなる裁きの場にでるとき、我々はそのみ座に父なる神がお座りになっておられるのを見ます。彼の目は悪を見るのにあまりにも清く、不義をご覧になることがおできになりません。罪人を決して見逃されるお方ではありません。そのみ前には罪のない天使たちが侍り、神の律法があります。それは神が完全であるように、完全で、さばきの大いなる標準であります。神の光の臨在の前には、我々がしたすべての正確な写しがあります。我々が生ける者のさばきの前に立つとき、神のさばきが神の家から始まらなければならぬときに、我々に対するメッセージは何でしょう。「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのように上げ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を示せ」ということであります。

あらゆる形の罪は放棄されなければなりません。食欲は聖なる原則によって清められなければなりません。聖書は「肉の欲をみたすことに心を向けてはならない」と言っています。我々の目は神の栄光にただ一筋に向けられなければなりません。イエスは「もしあなたの目が罪を犯させるなら、



それを抜き出して捨てなさい」と言われました。もしそれが我々に罪を犯させるなら、今こそ「抜き出す」時であります。我々の耳も神の声とメッセージに合わせなければなりません。イザヤ50：4、5はイエスの経験を描写していますが、それはまた彼に従うすべてのものに適応されなければなりません：

「主なる神は教えを受けた者の舌をわたしにも与えて、疲れたものを言葉をもって助けることを知らせ、また朝ごとにさまし、わたしの耳をさまして、教えを受けた者のように聞かされる」主なる神はわたしの耳を開かれた。わたしは、そむくことをせず退くことをしなかった」

イエスは朝ごとに何をなさったのですか？ 目覚めて天父の声を聞かれたのです。我々の耳は朝ごとに主のみ声を聞くように調整されているでしょうか？すべての声が静まったとき、我々は静まってくれこそ神であることを学んでいるでしょうか？我々の舌はキリストの恵みによって清められなければなりません。「審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなくてはならないであろう」マタイ12：36。ああ、預言の霊は何と多く愚かな言葉、むなし言葉について言っていることでしょうか！我々はもう一度すべての言葉、行為に直面しなければならないといわれています。次の預言の霊からの引用文は若い者たちに宛てて書かれているものですが、しかし、私はそれは若い者たちにだけ当てはまるのではないことを承知しています。

「真理を信じると告白する若い青年男女の軽々しい浮薄な精神がどこにでもみられるのを目撃すると私は驚きを感じる。神様のことは彼らの思いの中に見えないように見える。彼らの心はつまらないこと、ナンセンスで満ちている。彼らの会話は下らない、無益な話のみである」

1 T 4 9 6。

我々の思いはどうでしょうか？聖書は何と言っているでしょうか。すべての思いはキリストの思いにとりことされなければなりません。主はあまりにも清い目をもっておられるので、悪をご覧になることはできません。どんな不純な思いもご覧になれません。我々の最高の愛情はどこにあるでしょうか。

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない」1ヨハネ2：15。

我々の生活を悩ますもの——貪欲、利己主義、自己中心主義を考えて下さい。我々のタレントはどうでしょうか？何のためにそれらは使われているでしょうか？自己のために使っているでしょうか。それともホワイト夫人が言っておられるように、我々の王の働きを我々の生涯の第一のビジネスとするという教えにしたがっているでしょうか？主の再臨に全く関係した生き方をしているでしょうか？それとも、安息日にだけ、時折主がこられて、天国につれていって下さると思うような生き方でしょうか？我々は全的に人の子の来臨に関した生き方をしているでしょうか？

どれだけの時間を浪費しているでしょうか？我々の生活は聖霊に満たされているでしょうか？どれだけの毎日の生活に愛と、柔和、優しさと忍耐を表わしているでしょうか？我々のビジネスの取り引きにおいて真実でしょうか、不真実でしょうか？正直でしょうか、不正直でしょうか？我々は国の法律の境界内で何かできるでしょうか。しかし、神の律法にはパスするでしょうか？すべての人を裁く律法は「自分を愛するように、隣人を愛しなさい」また「自分にして欲しいと思うことは人にもそのようにしなさい」という律法で裁かれるのです。同胞に対する我々の行ないは、テストに合

格するでしょうか？我々の日毎の思いはどうでしょう？我々の思いは天の最も厳粛な働きに心を注いでいるでしょうか？なお何年も地上生活が続くような計画をし、この地上のむなしい事柄の中で、はいつくばっているのでしょうか？

我々は使徒パウロがコロサイ 3:3に言っているような状態でしょうか？「あなたがたはすでに死んだものであって、あなたがたの命は、キリストとともに神のうちに隠されているのである」主の僕は初代文集 1:13, 4ページに次のように言っています：

「キリスト者となり、神のものとなり、神に嘉されるということは生易しいことではない。主は現代の真理を信じるといいながら、生活がその言うところと一致していない人々を私にお示しになった。彼らの信仰の標準はあまりにも低く、聖書の聖潔にはるかに及ばない。むなしい行状にふけり、利己心をほしいままにしているものもある。我々は、自分を喜ばせ、世の中の人々と同様の生活行動をなし、世の快樂に耽り、世の中の人々との交わりを楽しみながら、キリストと共にみ国で支配することを期待することはできない。

もし我々が、来世において、キリストの栄光にあずかろうと思うならば、この世において、キリストの苦難にあずからなければならない」

私は、DR \_\_\_\_\_ が言った言葉をここにもっています。「本当は、我々は、イエスがこられるのを望んでいないということである」サルデスの教会員は、イエスを愛すると自称していたが、彼らは再臨のメッセージを拒みました。なぜでしょう？彼らは「我々は本当は、イエスに来てもらいたくなかったのです」ということが真実だったのです。「できれば、来年新しい我が家を楽しんでからにして下さい」「イエス様、息子が受けた教育を生かすのに数年かかりますので、成功するまで待つて下さい」「神様、この夏休みのために切り詰めて蓄えましたので、あなたのこられるのを来年に延ばして下さいませんか」「主よ、来週、同窓会のパーティーがあります。私がリードするのをみんな期待しているので、あなたのおいでになるのを来月にして下さい」「主よ、私は引退後のすばらしい計画をしているのです。生涯掛けて預金したものが、来年満期になるんです。ですからもう少し楽しませて下さい。私は旅行して、あなたが造られた美しい世界を見てみたいのです」「主よ、私は愛する妻の側に葬られ、その墓石に我々の成し遂げたことを刻みたいのです、もうしばらく待つて下さい。私も父の偉業に付け足したいのです。そして一緒に復活する喜びにあずかりたいのです」しかし、みなさん、我々がこの地上から昇天したければ、昇天されるかのように生きなければならないのです。

聖書は「シオンでラッパを吹きならせ」「わが聖なる山で警告を発せよ」レビ 19:17の聖句は我々すべてに当てはまります。一緒に見ていただきたいと思います。「あなたの隣人をねんぐるにいさめて彼のゆえに罪を犯してはならない」どういう意味でしょうか？最初の部分を考えてみましょう。英語では、(in any wise-どうしても)となっています。どんなところでも、言い訳せずという意味です。「あなたの隣人を、どんな場合でも戒めよ」、つまり兄弟、隣人が悪いことをしているのを見たなら、聖書はどうしなさいと言っているのでしょうか？言い訳なしに、「隣人を戒めなさい」というのです。もし、しなければどうなるのでしょうか。「彼のゆえに罪を身に負う」ことになるのです。我々は同じように罪に定められるのです。神が「大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのように上げ、我が民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ」と言われる、このあがないの日に当てはまります。

主は、もしあなたが悪の真ただ中に住んでいるなら、その悪に対して異義を申し立てなければならないといわれました。非難の精神をもってするのではなく、愛をもってするように主は言っておられます。苦い思いをもってするなら、我々も同じく罪ありとせられます。我々は抗議しなければなりません。そのために、しばしば何かを犠牲にすることがあります。ヨハネはそうしました。彼

はヘロデがしていることを知っていました。そして彼の義務を知っていました。もし彼の義務を遂行したら、彼の生命を失うであろうことも知っていました。聖書は「どんな場合もあなたのとなり人を戒めよ」と言っています。それは自分の生命を掛けることになるかも知れません。ヨハネはそうして、自分の生命を失いました。しかし、彼は自分の魂を救うことになったのです。ですから、主は異義申し立てをするように呼びかけておられます。もしあなたが主イエス・キリストの忠実な証人であるなら、それは愛の働きの一部であります。我々はプロテスタント（抗議するもの）ではないでしょうか？プロテスタントという言葉は、「プロテスト」する＝「抗議を申し立てる」ということから来ています。

教会へ証5巻209ページからお読みします。

「教会の危機と沈下が最高の時に、光に立っている小さなコンパニー（群れ）は、地に行なわれている、憎むべきことに関して嘆き悲しむであろう。しかし、彼らの祈りは特に教会員が世にしたがって歩んでいるために、彼らのために捧げられるのである。」

「... この嘆き悲しんでいるものたちは、生命の言葉にしっかり立っていた。彼らは警告し、勧告し、嘆願した...」

「自らの霊的な衰微を悲しく感じない人々、他の罪を嘆き悲しまない人々は神の印を受けずに、ほうっておかれるであろう。」

みなさん、主が我々に与えられた教えを遂行しなければ、どうなりますか？我々は神の印を受け損じることになります。何という厳粛なことでしょう。たとい、イエスの柔和をもってしても我々は他の人の感情を害するために、立場を失うことになるかも知れません。教会の理事の役職を失うかも知れません。しかし、小羊の生命の書から我々の名が失われてはなりません。

ある人は言うでしょう。「そんなことしたら、神の教会の中におけるいを起すことになるのではないか。もしすべての罪、教会に現れるすべての過ちにに対して忠実な証をたて、戒めたら、大きなふるいが起き、教会に分裂が起きるのではないか」と。初代文集438からお読みします。

「わたしはふるいの意味を尋ねた。それはラオデキア教会へのまことの証人の勧告が生じさせた率直な証によるものであることを、わたしは示された。これは受ける者の心を動かして、高く旗を掲げさせ、率直な真理を語らせる。ある者は、この率直な証を聞くに耐えない。彼らはそれに反対して立ち上がり、それが神の民の間にふるいを起こさせる原因となる」

主の僕は「シオンでラッパを吹きならせ」と言われます。イスラエル全域にわたって確かなラッパの音が聞かれるようにしようではありませんか。それがさばきの日に備えてなされなければならない条件の一つです。

次に「断食を聖別し」と言われています。今日神の民のために定められた断食とはなんでしょう？

古代イスラエルにおいては、あがないの日に、彼らは何も食べませんでした。もちろん今日我々に字義通り適応されるべきものではありません。なぜなら、実態のあがないの日は1844年から続いているからです。しかし、断食とは広義の意味では、食事を節制するという意味があります。ダニエルは3週間にわたってうまいものを食べず、肉も食べずに断食をしています。ダニ10:2。

断食をしているときに、彼は主イエス・キリストの幻を見ます。そしてその足もとに死人のように倒れたのです。これは最後のあがないの日の時代の、聖所の周りに集まってくる神の民の経験を表わしています。

イエスが呼びかけておいでになる断食とは、預言の霊にはっきりと提示されています。預言の霊を書かれたのはイエスであり、エレン・G・ホワイトではありませんでした。彼女はただ器にしか過ぎませんでした。彼女の書き物は最後の教会へのイエスの証でした。イエスが定めておられる断食とは、良いものを節制し、有害なものは一切断つことです。我々は聖所の清めの時代に住んでいます。それは何か天で起こる出来事だけではありません。我々と全然かけ離れたことではありません。真の聖所の清めは我々の心のうちに起こることです。兄弟がた、特に我々は豊かな国に住んでいて、死んだ肉を食べていて、なお、お茶やコーヒーに執着していて、聖所の清めにあずかることができると思いますか？ああ、なんと多くの者がエソウのようにその家督権を、ただのスープのために売り渡していることでしょう。

神の民に呼びかけておられる真の健康改革と断食とどのように結びつけられているでしょうか。イザヤ58章からお読みします。

「このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人が己を苦しめる日であろうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食となえ、主に受け入れられる日と、となえるであろうか。

わたしが喜ぶところの断食は、悪のなわめをほどき、くびきのひもを解き、しえたげられる者を放ち去らせ、すべてのくびきを折るなどの事ではないか。また飢えた者に、あなたのパンを分け与え、さすらえる貧しい者を、あなたの家に入れ、裸な者を見て、これに着せ、自分の骨肉に身を隠さないなどの事ではないか」イザヤ58：5～7。

ここに残りの教会に神が定められた断食があります。これが、厳粛なさばきの時に我々の名前があげられる時のために備えるべき働きがあります。みなさん、我々はそのような断食をしているでしょうか？ほんとにその条件を果たしているでしょうか？人はその信仰によってさばかれるのではありません。人は信仰によって義認されるのです。しかし、信仰は神だけが見ることのできるものです。人はその行ないによってさばかれるのです。彼らの告白は何の役にもたちません。貧しい者、苦しめる者、孤児、我々の助けを必要とする者たちのためにしたことがキリストの為にしたことであり、それが重要なのです。他に奉仕することによって、イエスの精神を表わしたかが問題なのです。

聖書は「聖会を招集し」と言っています。古代のあがないの日は確かに厳粛な集まりでした。わたしの聖書の欄外には「仕事を止めて」とあります。あがないの日には彼らは仕事、ビジネスを止めて、聖所の周りに集まってきたのです。それは私たちにとっては字義通りに仕事をしてはいけないということの意味してはなりません。1844年が過ぎて後に、ある人達はそう考えたのです。彼らはどんな仕事もしようとせませんでした。ホワイト夫人は、彼らの狂信を譴責なさいました。使徒パウロは言っています。「働こうとしないものは、食べることもしてはならない」2テサロニケ3：10。

ヘブル4章に仕事を止めることの意味が記されています。「なぜなら、神の安息にはいった者は、神がみわざを止めて休まれたように、自分も業を休んだからである」10節。我々は自分の業、自分の方法、自分の計画、野心、利己主義、また神のご臨在の前にでられるように、自分を義としようとする自分の努力、この地上での神の働きを完成しようとする我々の計画を止めるべきでありま

す。我々は神の働きをほとんど我々自身の方法で完成しようと百数十年試みてきましたが惨めにも失敗しています。我々は神が我々と共におられたことに対して感謝すべきですが、神は、今はご自分の方法に完全に協力して欲しいと願って、この実態のあがないの日に聖所の周りに集まり、我々のために用意しておられる祝福、清めをいただいて、それから全世界に大いなる叫びをするように望んでおられるのです。

「聖会を招集し」。我々は自分自身に死に、主イエス・キリストに生きなければならない時です。「民を集め、会衆を聖別し、老人たちを集め、幼な子、乳飲み子を集め、」。すべてのものが出席しなければならないのです。我々の子供たちが救われて欲しいと望むなら、我々は彼らをイエスのもとに、大祭司のもとに、つれてきて大いなるあがないの日に参加させるべきです。

聖所に集まるときに、何をするのでしょうか？聖所に集まるということはどういう意味でしょうか？古代イスラエルにおいては、字義通り、幕屋の周りに集まりました。我々も聖所の周りに集まるように言われていますが、教会への証5巻-575ページに、主の僕はその意味を天の聖所で我々のためにしておられる働きに関して「研究と瞑想と祈りによって」聖所に集まろうと言っています。

「聖所と調査審判に関する主題は神の民によってはっきりと理解されなければならない。すべてのものは、自分たちの大いなる大祭司キリストの立場と働きについて自分自身で知っている必要がある。そうしなければ、この時代にあって必要な信仰を働かせることも、神が彼らの為に計画しておられる立場を占めることもできなくなる」大下222。

「机の上から語られていることから平安と光があなたの心に来るかもしれないが、自分自身のみ言葉を知らなければ、その平安と光はあなたと共に留まらないであろう」

ローマ書の研究、E. J. ウゴナー P9.

兄弟がた、我々は一つ心になるために聖所の周りに共に集まらなければなりません。ペンテコステの経験をしたものたちは、どうしたでしょう？ひとつ所に、一つ心になって集まったのです。主の僕は、彼らがした同じ働きが神の民によってなされなければならないと言っています。我々も一つ所に、一つ心で集まらなければなりません。それはどの場所ですか？天の聖所です。信仰によって従っていくのです。

それでは最後はなんでしょう？「主に仕える祭司たちは、廊と祭壇との間で泣いて言え」。聖所の周りで魂を悩ます働きが記されています。主の僕は各時代の争闘の224ページに次のように言っています：

「我々は今、大いなる贖罪の日に生存している。型としての儀式においては、大祭司がイスラエルのためにあがないをしている間、すべてのものは、主の前に罪を悔い改め、心を低くすることによって身を悩まさなければならない。もしそうしなければ、彼らは、民の中から、絶たれるのであった。それと同様に、自分たちの名が命の書にとどめられることを願うものは皆、今残り少ない恩恵期間のうちに、罪を悲しみ、真に悔い改めて、神の前に身を悩まさなければならない。我々は深く忠実に探らなければならない。多くの自称キリスト者が抱えている軽薄な精神は捨て去らねばならない」大下224。

ここに大いなる実体のあがないの日の条件が書かれています。しなければならない準備は急いでしなければならないなりません。なぜなら、主はご自分の宮—教会に突然こられるからです。我々は王の

大路を備えなければなりません。

## さばきの経験

では、生ける者のさばきの経験について考えてみましょう。多くの者は、死せる義人のさばきから、生ける者のさばきに移る時については、神を待っている忠実な民は何も知らないと思っています。しばしばマタイ24章の聖句にもとずいてこう言われるのです。42節の聖句は特にさばきの時のことまた、恩恵期間の終わりの時と関係した事件について言っています。40節から読んでみましょう：

「そのとき、ふたりの者が畑にいと、一人は取り去られ、一人は取り残されるであろう。ふたりの女がうすをひいていると、一人は取り去られ、一人は取り残されるであろう。だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたにはわからないからである」

確かに我々はその日、その時を知りません。しかし、我々はしばしばここで止まって次の節を読まないのです。「いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたにはわからないからである」「しかし」と英文ではつづきますが「このことをわきまえているがよい」つまり、主のこられる時を我々は知りませんが、「このことを知りなさい」と言われています。何を知るべきなのでしょう？「家の主人は、盗賊がいつごろ来るかわかっているなら、目をさまして、自分の家に押し入ることを許さないであろう」もし盗人が何時に来ることがわかれば、彼は目をさましているでしょう。しかし、その時間は知りません。その日その時を知るように期待されていないのです。しかし、彼は夜目をさましていたら、盗人が押し寄せてくるのを知るはずです。

大争闘下巻2.24ページに似たような文があります。「審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく――その時がいつかは誰も知らないが――生きている人々の番になる」この言葉は説明を必要としないほどあまりにもはっきりしています。死んだ義人から生ける者のさばきに移ることがどれほどすみやかになされるかは誰も知りません。しかし、ここで読むのを終わると、マタイ24章にもあったように悲しいことです。

「今は、他のどんな時にもまさってすべてのものが救い主の勧告に心をとめるべき時である。『気をつけて、目をさましていなさい。その時がいつであるか、あなたがたにはわからないからである』『もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんな時にあなたのところに来るか、あなたには決してわからない』」

注意していただきたいのです。主は「もし目をさましていないなら」どんなことが起こるといわれましたか？「わたしは盗人のように来るであろう」と言うのです。では、これを否定的な表現から、肯定的な表現に変えてみましょう。もし、目をさましているなら、どうなるでしょう？その時が来た時分かるのです。

マタイ25章は24章の同じ主題が続いています。ここに10人の乙女のたとえが書かれています。彼らは花婿を迎えようとしていたが、皆居眠りしてしまったのです。

「夜中に『さあ、花婿だ、迎えにでなさい』と呼ぶ声が出た。その時、乙女たちはみなおきて、それぞれあかりを整えた。．．．彼らがいかにでているうちに、花婿が着いた。そこで、

用意の出来ていた女たちは、花婿と一緒に婚宴の部屋に入り、そして戸が閉められた」

マタイ25：6、7、10

用意して待っていたものたちは彼と一緒に婚姻に入り、戸が閉められたのです。このことは天の至聖所における裁きの働きを象徴しています。このたとえば、死んだ義人のさばきが始まった1844年に成就しました。どんなに顕著に成就したかということは、大争闘の本にかかれています。このたとえばの成就する初めに、夜中の叫びがなされたのです。しかし、このたとえばが将来にまた成就されることを主の僕は次のように書いています：

「わたしの心は『見よ花婿だ。迎えにでなさい』との合図が与えられる将来の時に向けられた」 RH 2-11, 1896

「わたしは、しばしば10人の乙女-5人の賢い乙女と5人の愚かな乙女-の事について示された。このたとえば過去において成就されたし、字義通りにまた成就されるであろう。なぜなら、それは特に今日に適応されるからである。第三天使の使命のように、過去において成就されたし、また終わりのときまで現代の真理として続くであろう」RH 8-1890。

「見よ、花婿だ」という叫びがなされる時—最後の合図が与えられる時—神の民はそれを知るでしょうか？ そうです、知るのです。キリストの実物教訓388ページからお読みします。

「品性がわかるのは危機においてである。『さあ花婿だ。迎えに出なさい』との熱心な叫びが声高々と真夜中に上がって、眠っていた乙女たちが目をさました時に誰がそのための用意をしていたかがわかる。両方とも不意に襲われたのであったが、一方には、非常の用意があって、他方にはその用意がなかったのであった。そのように、今日でも何か急に予期しない災害とか何かに当面するような出来事のときに、神の約束に真の信仰をおいているかどうか分かる。また魂が恵みに支えられているかどうか分かる。恵みのときの終わりに、最後のテストが来るのであるが、その時では魂の必要をみとすには遅すぎる」キ実388。

お分かりでしょうか。シグナルが与えられるのです。用意していた賢い者たちは婚姻に彼とともに入るのです。いつ「見よ花婿だ、迎えに出なさい」という合図が与えられるのですか？我々はその日その時は知りません。どれだけすみやかに来るか分かりません。しかし、「見よ花婿だ、迎えに出なさい」というシグナルが与えられます。さばきが死んだ義人から生ける者に移るときの合図が与えられる時に、魂の不足を満たそうとしても遅すぎます。いつそのシグナルは与えられるのでしょうか？キリストの実物教訓388ページに、なんと書いてありますか。それは、「最後の大いなるテスト」の時、何か来て、何か魂を死と直面させるのです。それをここで彼女は「最後の大いなるテスト」と呼んでいます。それは何でしょう？この言葉は預言の霊に何回も何回も使われています。

大争闘下巻374ページからお読みします。

「世界は恐ろしい結果をもたらす問題に直面しようとしている。地の権力者たちは、合同して神の戒めに逆らって戦い『小さき者にも大いなるものにも、富める者にも、貧しき者にも、自由人にも、奴隷にも、すべての人々に』、偽りの安息日を守ることによって教会の習慣に従うように命じるのである。．．．安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後の試練（テスト、原文）が人々を襲うとき、神に仕えるものと、



神に仕えないものの区別が明らかになる」

最後のテストとは何ですか？安息日です。「見よ花婿だ。迎えに出なさい」というシグナルが与えられる時は特にそうです。そのとき魂の不足を満たそうとしても、神の民にとっては遅すぎるのです。(主実388)。

ああ、なんと多くのものが日曜休業令まで待って、法令が出されてから、備えようとするでしょう。みなさん、テストが来るときには、遅すぎるのです。その時準備をしていた者たちの品性が表わされます。

S D A コメンタリー 7 巻の 9 7 6 ページからお読みします。

「獣の像は恩恵期間が閉じられる前に形作られるという事を主は明らかにわたしに示された。なぜなら、それは神の民にとって大いなるテストとなるもので、それによって彼らの永遠の運命が決定されるのである」

実にはっきりとしているではありませんか。獣の像が立つと売ったり買ったりできません。これは我々が神の印を受けるか、獣の刻印を受けるかを決定するテストです。これが「見よ花婿だ、迎えに出なさい」というシグナルとなるのです。

「今や、まもなく生ける者のさばきという大いなる働きが始まろうとしているときに、 (is about to begin) 我々の清められないままの野心が心を占領し、この危機に備える必要のある教育を怠るように導かれていいたろうか？一つ一つのケースにおいて、獣の刻印、あるいはその像を受けるか、それとも生ける者のさばき神の印を受けるかという一大決心がなされなければならない」6 T 130、(1900年にかかれた)

ここでわかることは、日曜休業令で印する働きが始まる時、さばきは死んだ義人から生ける者のさばきに移るのです。それが「見よ花婿だ、迎えに出なさい」というシグナルです。それは突然来るといわれています。今日の、特にこの国の(米国)政治と宗教の結合への状況を見ていると一夜のうちに神の民にテストが来る可能性があります。

その時が来て、生ける者のさばきが神の教会に来たとき、神の民の経験はどんなでありましょう。このとき、シグナルが与えられ、用意のできた者たちは婚姻に、大いなるさばきの働きに入るとき、一人ずつ名前が上げられるとき、一人一人のケースが全地の審判者の前にとり上げられるときの神の民はどんな経験をするでしょう。

「み座に居ます聖なるお方が記録の書のページをゆっくりめくられるとき、彼の目は、各個人にしばし目をとめられた。彼の目は彼らの魂の奥深く焼きいるように見えた。それはまるで火の文字によって彼らの目の前で写し取るかのように、はっきりと彼らの思いを検索された。彼らはふるえおののき、顔が青くなった」4 T 385。

そうです。みなさん。わたしのすべての行ない、すべての言葉にもう一度直面しなければならぬのです。この大いなる、厳粛な時、さばきにおいて各々の名前が呼ばれるとき、神の民は信仰によって、この経験に入るのです。罪の除去の働きは、ただ天で行なわれる事ではありません。聖所に集まってくる神の民の生活で起こるのです。「聖なるお方が記録の書のページをゆっくりとめくられる時」、天で我々の生活が調べ上げられるとき、この地上では何が起こるのでしょうか？

イザヤ4：4は主が審判の霊と滅亡の霊を与えて、彼らのすべての行ないと行動が、まるで火の文字によって探知されるかのように、はっきりと見せられるのです。彼らはふるえおののき、その顔は青ざめるのです。

この教会への証4巻のさばきに関する文章は非常に興味深いものです。今ここですべてのことを説明できませんが、みなさんが個人で研究していただきたいと思います。教会への証の索引には、「さばき」の項目の下に、その小見出しとして「調査審判」とあり、この章が上げられています。そして1千年後の「執行審判」としてもこの同じ章を載せています。この点、索引を編集された方は良い働きをしたと思います。なぜなら、この章は両局面のさばきに適応されるからです。生ける者のさばき、神の民がイエス・キリストとともにさばきに入る経験と、1千年期後のさばきの経験と類似点があり、共通している点とまた根本的に違う点もあります。

選択は我々に任せられています。我々はこの実体のあがないの日にイエス・キリストとともにさばきに入り、花婿の到来に備えができて、彼とともに婚姻に入ることができるのです。我々の名前の番になるとき、彼は我々に審判の霊と、滅亡の霊とを与えて、すべての行為は火の文字で探られるかのようにはっきり彼らの前を通り過ぎるのであります。震える忠実な神の民のために、すべての罪を永久に除去し、新しい契約の成就にあずかることができるのです。しかし、聖所に来ることを拒むこともできるのです。その代わり、1千年期の後に同じことを経験し、滅ぼされることもできます。大争闘にも描かれています。イエス・キリストが新しいエルサレムから立ち上がり、悪人の罪がまざまざと見せつけられるとき、同じような経験ですが、そこにはもはやあがないの血はないのです。罪は許されないのです。震えて青ざめるのですが、もう永遠に仲保の働きはありません。ですから選択は私たちにかかっています。生ける者のさばきの描写を初代文集からお読みします。

「わたしは、深い信仰と苦悶の叫びを上げて、神に嘆願している人々を見た。彼らの顔は青ざめ、深い憂いの色を帯びていて、彼らの内的苦闘を現わしていた。その表情には、堅忍不拔の精神と非常な熱心さとが現れていた。彼らの額からは、大きな汗のしずくが落ちた。彼らの顔には、時々、神の嘉納のしるしが輝くのであったが、また、もとの同じ厳肅さで熱心と憂慮に満ちた表情に戻るのであった。...

この一団の数は減少していた。あるものはふるい落とされて、途中に残された」

初代文集437。

何という光景の描写でしょう！神の民は、実体の大いなるあがないの日に聖所の周りに集まるのです。彼らの額からは大粒の汗がしたたり落ちています。顔は青ざめています。大いなるあがないの日に、神の前にふるえおののきしています。その後ふるわれて数が減少するのです。

まず第一に、彼女は教会に二つのグループがあることを描写しています。一つのグループは聖所で苦悶するものたち、もう一つのグループは無関心で不注意のものたちで、そういうことには全然関係したくない人達です。彼女は大きな一団のことについて話しているのではありません。強い信仰をもって苦悶のうちに嘆いている人達のことを語っているのです。「この一団の数が減らされた。あるものたちは途中でふるわれて残された」 わたしはどうしてだろうと思うのです。なぜ、さばきが死人のケースから生きている者に移るとき、この聖所の周りに集まる大いなる経験をしてみんな救われないのでしょうか。なぜ、あるものたちはふるわれて、道からはぐれるのでしょうか？なぜ全部救われないのでしょうか？

きつと告白しない罪、捨てきれない罪があって、取り残されることになるのでしょうか。何と厳肅なことでしょう。熱心になってすべての罪から離れることが要求されるのです。このおそるべき経

験に備えができていますでしょうか・最後のシグナル、「見よ花婿だ、迎えに出なさい」との声に備えができていますでしょうか？突然、主がその宮にこられるとき、主とともに婚姻に入る用意があるのでしょうか？「その現れる時誰が立ち得よう？」と聖書は言っています。

## さばきにおける勝利

最後にさばきにおける勝利のことを考えてみましょう。黙示録14章にさばきは「永遠の福音」と言われています。「福音」とは地上に住むすべてのものに「良きおとずれ」を意味します。さばきにおける勝利は何でしょう？聖書で、それは良きおとずれと呼ばれています。

教会への証5巻475ページに、徹底的に備えをして、シグナルが与えられるときに婚姻に彼とともに入って勝利する人達のこと書かれています。砕けた心をもって、聖所で苦悶して、熱心にイエスに懇願している人達のことを描写した後、主の僕は次のように言っています：

「神の民たちが彼のみ前に、その魂を悩まし、心の清められんことを願いもとめるとき命令が下される。『彼の汚れた衣を脱がせなさい』そして励ましの言葉が与えられる。『見よ、わたしはあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』... さげすまれてきた残りものたちは輝かしい衣を着せられ、もう決してこの世のけがれに汚されることのないものとされるであろう。... もう彼らは永久に誘うものの計略から安全である。... 聖なる御使たちは目には見えなかったが生ける神の印を彼らの上に記すために行き来していた」

さばきにおける勝利とは何でしょう？ 永遠の救済です。「汚れた衣を取り除きなさい」サタンは彼らの汚れた衣、品性の欠点、生涯の記録を指摘します。ところが「汚れた衣を取り除きなさい」との命令がなされます。神の民の罪がキリストの血によって除去され、それを再び思い出すことができないのです。彼らはイエスの義を完全に永久に着せられるのです。もうこの世の汚れに決して汚されないのです。

また、主の僕が、大粒の汗を滴り落として神に懇願している一団のことを描いていた初代文集に戻ってみましょう。震われて後のことが次のように描写されています：

「天使は『聞きなさい』と言った。やがて、わたしは多くの楽器が完全に調和して、美しい音楽を奏でているのを聞いた。それは、わたしがこれまでに聞いたことのない音楽で、恵みと憐れみに満ち、高尚で聖なる喜びにあふれていた。それはわたしの全身を感動に震わせた。天使は『見なさい』と言った。わたしは、前に涙を流し、苦悶しているのを見たその人々に注目した。彼らの周りの守護の天使は2倍に増やされた。そして人々は頭から足まで武具をまとっていた。彼らは兵卒の隊のように、規律正しく動いた。彼らの顔は彼らの耐えてきた激しい争闘と苦悶とを表わしていた。

しかし、彼らの容貌は激しい内的苦悶の後があったとは言え、今は天の光と栄光に輝いていた。彼らは勝利を得た。そして彼らは、深い感謝にあふれ、聖なる喜びに満たされていたのである」

「わたしは武具をまとった人々が力強く真理を語るのを聞いた。それは効果的であった。... わたしは何がこのような大きな変化をもたらしたのかを尋ねた。『それは後の雨、主のみ前からの慰め、第三天のおおいなる叫び』であると天使は言った」 初文439、440。

ホワイト夫人はあの一団を見て、大変化が起きたことを知りました。悪天使が暗黒を投げかけて、イエスのみ前に苦悶して、青ざめた顔をしていたのに、今や、状態は打って変わって、恐るべきこと旗を掲げた軍隊の様な姿を見せられたのです。顔は輝き、聖なる献身、聖なる喜びに満たされて、深い感謝のうちに規律正しく動く軍隊の一団を見せられたのです。何という変化でありましょう！驚きのうちに天使に尋ねました。天使は何と答えますか？「後の雨、主のみ前から来る慰め、大いなる叫びです」

使徒ペテロは「だから、悔い改めて本心に立ち返りなさい、それは、罪をぬぐい去っていただき、主のみ前から慰めのときが来て」と言っています。そのとき、神はさばきにおいて承認の印を押されるのであります。主は心貧しくうちひしがれているものを義とし価値あるものとして、大勝利を与えられるのであります。「罪を除去して後の雨を彼らに与えて下さい」とイエスはとりなして下さるのです。神の民は頭から足まで堅固な武具で身を固め、地に住む人々にさばきの時は来たとの良きおとずれを大いなる力で宣べ伝えるのです。その時には獣の刻印を受けず、像を拝まない者は売ったり買ったりできないという法令が出されています。神の民は人々に、さばきに入り、獣とその像とその刻印とその名の数字に打ち勝つように呼びかけるのです。

主の大いなる日に備えるように主は訴えています。10人の乙女のたとえにあるように、分離が起こります。ある人は、大いなる聖所のメッセージを受け入れるものは5人の賢い乙女で、拒むものは5人の愚かな乙女であると思っているかも知れません。ただ手をこまぬいて待っていて、「私たちは賢い乙女である」と思うところに危険があります。そうではないでしょうか。

このたとえが成就した我々の歴史をふり返ってみましょう。どのようにもう一度成就されるかを理解するために。1844年の運動の時、10人の乙女たちは、サルデス教会（プロテスタント）から花婿に会おうと出ていったのです。その当時、誰が賢い乙女で、誰が愚かな乙女でしたか？愚かな乙女とは、使命を拒んだものたちでしたか？違います。危機が来るまで分からなかったのです。

使命を拒んだ多くのもの、使命と何の関係も持ちたくない者たちがいました。10人の乙女たちとはさばきのメッセージを受け入れた者たちでした。特に1840～1844年にいたるまでのさばきの使命、再臨運動に参加した人でした。太下381。花婿に会うように出迎えた乙女たちでした。他のものたちは、公然と「主の帰りは遅い」といって反対した人達でした。では、今日、さばきの日に住んでいる私たちに当てはめてみましょう。マタイ25章を読む前に、24章を読んでみましょう。44～46に気をつけて下さい。

「だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。主人がその家の僕たちの上に立てて、時に応じた食物を備えさせる忠実な思慮深い僕は、いったい誰であろう。主人が返ってきたとき、そのように見られる僕は、さいわいである」

時に応じた食物は現代の真理であります。そのような者たちは幸いであると言われていますが、もう一方の僕のことについて記しています。

「もしそれが悪い僕であって、自分の主人は帰りが遅いと心の中で思い、その僕仲間たちを叩きはじめ、また酒飲み仲間と一緒に食べたり飲んだりしているなら、その僕の主人は思いがけない日、気がつかないときに帰ってきて、彼を処罰し、偽善者たちと同じ目にあわせるであろう。彼はそこで泣き叫んだり、歯がみしたりするであろう」48-51

ニュー・イングリッシュ・バイブルでは悪い僕を「偽善者」と訳しています。

神の教会には二種類の人があります。これは最後の時代の神の民を描写していますが、その違いが分かりますか？彼らの間に分離さえあります。1840年から1844年までもそうであったように。現代の真理のメッセージを信じるものたち、他方は「主人の返りはおそい」と思い、仲間を叩きはじめ、酒飲みとともに食べ、飲むものたちです。それは字義通りのことを言っているのではありません。どんな意味があるのですか？それは世の教えと妥協し、他の教会に接近し、我々は何もそんなに特殊であるべきでないと思うのです。このように二つの種類に分かれます。主の僕は次のように言っています。「我々がさばきに近付くと、すべてのものは、その真の品性を表わしてくる。そしてどちらの組に属するかが明らかにされるであろう」教会への証1巻P・100。

だから、神の教会のなかに分離があることが描写されています。一つのグループは、時に応じた食物、現代の真理を宣べ伝えます。他方は主人の返りは遅いと思い、仲間をたたくのです。混乱が起こります。悪い僕たちは偽善者なのです。

では、愚かな乙女たちは何でしょう？彼らは偽善者たちですか？いいえ違います。(キ実387) 彼らは仲間をたたく、偽りの教理を飲む方には入っていません。「乙女」とはどういう意味ですか？1844年に教会に与えられた純潔な信仰をもっている人達です。彼らはその信仰を維持する人達です。今日、神の教会にこのふた種類の人々が発展しているのを見ます。

しかし、みなさん、主はその宮に突然こられる、聖所に来て厳粛な備えの働きをしなければならぬと信じている者の中にさえ、賢い乙女と愚かな乙女がいて、その違いは分からないのです。その違いはさばきが死んだものから生ける者に移るまでは分かりません。その違いは何でしょうか？外観でしょうか？彼らの信仰の告白でしょうか？彼らは一緒に花婿を迎えるために、さばきの勝利、罪の除去、後の雨を受けようと出ていくのです。

主は彼らが少しも予期しないとき、彼らの信仰をテストするために、たちまちその宮にこられるのです。賢いものたちでさえ驚かされるのです。恐るべき緊急事態が来たときに誰がそのために備えをしたかが分かるのです。その時分離が見られます。賢い者と愚かな者との違いは何でしたか？両方とも灯火をもって、純粋な信仰を持っていました。両方とも花婿を迎えに出ていきました。両方とも現代の真理を信じていました。一方は神の真理を生活に実行しました。他方は主イエスとの生ける経験を持っていませんでした。賢い者たちは真理を学んで実行していたのです。

何という厳粛な分離と清めのときが目前に迫っていることでしょうか。「用意ができたものたちは彼と共に婚姻に入っていった」との言葉のように、願わくは、我々も「備えよ、備えよ、備えよ」との天使のことばを心にとめようではありませんか？

### 肉食と肉体的、知的、霊的健康

「肉食の危険性に目覚める者がまだ、動物の肉を食べることによって、肉体的、知的、霊的健康を損ねている。今、肉食の問題で半分しか悔い改めていない多くの者は、神の民から去って、もはや彼らと共に歩まなくなるであろう」  
健康への勧告 575

「ひんぱんに肉を使う者は、いつも明瞭な頭脳と、活動的な知性を持たない。なぜなら、動物の肉を使うことは、肉体を鈍くし、心の繊細な感受性を鈍らせる」  
食事と食物に関する勧告 389

「真理が何であるかの知覚力を失う」同上 403

## 質問と答え (2)

**質問 1** . 生けるものの裁きは、日曜休業令から始まるとどうしてわかるのですか。、だれもその時は知らないと思います。ホワイト夫人も次のように言っておられます。「審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。間もなく――そのときがいつかは誰も知らないが――生きている人々の番になる」と。大下224

答え：この質問を二つに分けて考えてみましょう。

1. 生ける者のさばきは日曜休業令という事件から始まるのですか？生ける者のさばきは、日曜休業令の前でも起こり得るのではないのでしょうか？
2. 「生ける者のさばきは何時から始まるか誰も知らない」のだから、日曜休業令というのも、時を定めることになるのではないのでしょうか？

1. まず、第1の質問を考えてみましょう。この疑問は2つの明確な事実を考慮することによって解決できます。

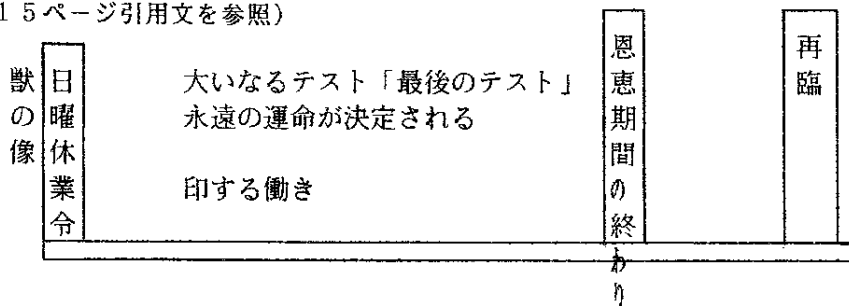
- ① 神の民は、獣の像という「大いなる最後のテスト」に直面する時に、永遠の運命が決定される。その時彼らは生ける神の印を受ける。
- ② 神の民は、さばきにおいて運命が永久的に決定される。その時彼らは神の印を受ける。

上の①と②の事実が確かであるなら、結論を引き出すのはやさしい。では、①と②の前提は神のみ言葉から真理であるかどうか調べてみましょう。

「獣の像は恩恵期間が閉じられる前に形作られるということを主は明らかにわたしに示された。なぜならそれは神の民にとって大いなるテストとなるもので、それによって彼らの永遠の運命が決定されるのである。．．．（黙示録13：11～17引用）．．．これは神の民が印される前に経験されなければならないテストである」 7BC 976

「安息日は、特に論争点となっている真理であるから、忠誠の大試金石となる。最後のテストが人々を襲うとき、神に仕える者と神に仕えないものの区別が明らかになる。第4条の戒めに反して、国家の法律に従って偽りの安息日を守ることは、神に敵対する権力に忠誠をつくすという表明であり、一方神の戒めに従って真の安息日を守ることは、創造主に対する忠誠の証拠である。一方は、地上の権力に服従するしるしを受け入れることによって、獣の印を受け、他方は、神の権威に対する忠誠のしるしを選んで、神の印を受けるのである」大下375

「法令によって「最後のテスト」がもたらされる時、永遠の運命が決定され、獣の刻印か、神の印を受けるのです。（15ページ引用文を参照）

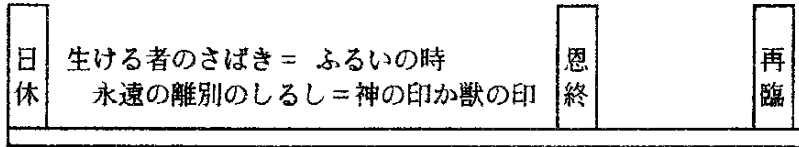


〔獣 = ローマ法王教、獣の像 = 政治と宗教の一致、拝ませる = その権威（日曜神聖）の強制〕

「さばきの時は、最も厳粛な期間である。その時主は、毒麦の中から己が者を集められる。同じ家族の一人一人も分かれたるのである。義なる者にはしるしがつけられる。．．．あるものが取り上げられ彼の名が生命の書の中にとどめおかれる時、一方彼と交わっていたものが神からの永遠の離別のしるしを受けるのである」TM 234、235（TM444-446も参照）

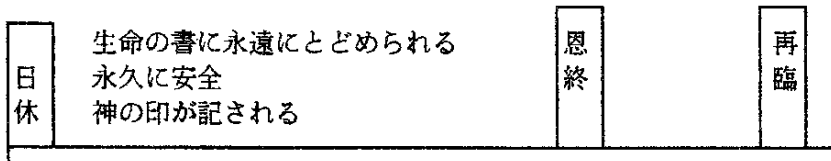
日休 = 日曜休業令

恩終 = 恩恵期間の  
終わり



「今や、生ける者のさばきという大いなる働きが始まろうとするとき (is about to begin)、我々は清められないままの野心が心を占領し、この危機に備える必要のある教育を怠るように導かれていだろうか？一つ一つのケースにおいて、獣の刻印、あるいはその像を受けるか、それとも生ける神の印を受け得るかという一大決心がなされなければならない」6T130

「神の民が神のみ前にその魂を悩まし、心の清められん事を願いもとめるとき、命令が下される。『彼らの汚れた衣を脱がせなさい』そして励ましの言葉が与えられる。『見よ、私はあなたの罪を取り除いた。あなたに祭服を着せよう』キリストの義の汚れのない衣が試みられ誘われてもなお忠実であった神の子らの上に置かれるのである。さげすまれてきた残りのものたちは輝かしい衣を着せられ、もう決して世の汚れに汚されることはないものとされるであろう。彼らの名は小羊の生命の書にとどめられ、各時代の忠実なものたちと共に登録される。．．．もう彼らは永久に誘う者の策略から安全である。．．．サタンが彼らの訴えを主張し、この一団を滅ぼそうとしていたとき、聖なる天使たちは目には見えなかったが生ける神の印を彼らの上に記すために往き来していたのであった」  
5T475



生ける者のさばきは非常に切迫しており、今はその厳粛な大いなる最後のテストのために準備をすべき時です。何という神の憐れみ、忍耐でしょう！

「兄弟がた、あなたがたは大いなる準備の働きにおいて何をしているか。世と妥協している者は、世の型を受け、獣の刻印を受ける準備をしている。自己に頼らないで神の前で謙遜に、真理にしたがって魂を清めるものは、天の型を受け、彼らの額に神の印を受ける準備をしている。法令が発布されて印が押される時、彼らの品性は永遠に清く、しみのないものとなる」5T216

|       |   |
|-------|---|
| 第一前提： | 日曜休業令（最後のテスト）で、神の民の永遠の運命が決定される。         |
| ま     | A                                       |
| と     | B                                       |
| 第二前提： | 神の民の永遠の運命は、 <u>生ける者のさばき</u> において決定される。  |
| め     | B                                       |
|       | C                                       |
| 故に：   | 日曜休業令が出されてから、 <u>生ける者のさばき</u> が始まるのである。 |
|       | A                                       |
|       | C                                       |
|       | もし A = B, B = C であるなら、A = C である。        |



聖書の熱心な研究者は、預言の霊がなくても、聖書から同じ真理を発見するでしょう。黙示録14章は黙示録13章の光で研究されるべきです。黙示録13章が成就したときに、黙示録14章が「明確な言葉で繰り返される」でしょう。7BC976。その時は、地に住むすべての者にさばきがのぞむ時であり、バビロンは完全に倒れているのです。神の僕らは獣とその像の同盟を指摘し、その罪を暴露するのです。黙示録13章のテストが各々の魂にやってくる時、神の印を受けるか、獣の印を受けるかのどちらかが決定されるのです。

「地に住むもので、ほふられた小羊の命の書に、その名を記されていない者はみな、この獣を拜むであろう」（英文：世の始めからほふられた小羊）黙13：8

「あなたの見た獣は、．．．やがてそこ知れぬところから上ってきて、．．．地に住む者のうち世の始めから命の書に名を記されていない者たちは、この獣が、．．．来るのを見て驚き怪しむであろう」黙17：8

この聖句は、試練のときにだまされて獣を拜む者たちの名が命の書から除去されていることを示しています。このことによって、さばきは最後の大きいなるテストと同時に起こるものであることを知ることができます。預言の霊はそのことを「神の民の永遠の運命を決定する大きいなるテスト」と言っています。7BC976。

2. 次に、裁きの時は誰も知らないのではないのでしょうか？大下224には次のように書いています。「審判は今、天の聖所において進行中である。長年にわたって、この働きは続けられてきた。まもなく――その時がいつかは誰も知らないが――生きている人々の番に移る」。日曜休業令から始まるというのも、時を定めることではないのでしょうか？

その通りです。1844年以後、「時に基づくメッセージは、神の民のためにもう決してない」1SM188。主の僕は何年何月に何が起きると「その日、その時」を決めることに対して強い警告を発しておられます。それがいつかは誰も知りません。我々は日曜休業令が何時出されるか、獣の刻印がいつ強制されるかも知らないのです。しかし、この引用文は、真の神の民はそれが来たとき、その事件を察知しないとはいっていません。その言葉の次に引用されている聖句を見逃してはならないと思います。「もし目をさましていないなら、わたしは盗人のように来るであろう。どんなときにあなたのところに来るか、あなたには決して分からない」。我々はもし目をさましていないければ、さばきは盗人のように来ること、そして、その事件を察知しないということを知らなければなりません。しかし、覚えなければならぬことは「もし目をさましていないければ」なのです。

「しかし兄弟たちよ。あなたがたは暗闇の中にいないのだから、その日が盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないのである」。1テサロニケ5：4

「我々はその日が盗人のように襲うことがないように、いつも用意していなければならない」

TM233

「この警告を心にとめているものは、暗黒のうちにとり残され、その日が不意に彼らを襲うことはない。しかし、目をさましていない者にとっては『主の日は盗人が夜くるように来る』のである。1テサロニケ5：2」大上27。

「全地に住んでいるすべての者たちに、この世を我が家としているすべての者たちに、神の日は畏のようにやってくる。それは忍び足の盗人のように彼らにやってくる」1希104

「畏のように、さばきは地のおもてに住むすべての者にのぞむであろう」4T51

生ける者のために印する働きが始まるときのシグナルなどは分からないということによって、さばきが不意にやってきたとき備えができていないと慌てふためくのです。そのような人達には、キリストは盗人のようにこられ、その時に気づかないでしょう。

「時のじるしを見分ける忠実なものたちがいるであろう」5 T 10

キリストが盗人のように来るという聖句は、生ける者のさばきとキリストの再臨の両方に使われています。この原則は両方の「来る」に当てはまります。キリストが来るという表現は、再臨のときばかりでなく、至聖所に移られることにも使われています。マラキ3:1 大下142。

**質問 2**：次の引用文は生ける者のさばきもう始まっているように思えるのですが、

「震われないものが残るために、震われるべき者はすべて震われる時がやってきました。すべてのケースが神の前で取り調べられようとしています。(Every case is coming in review before God). なぜなら、神は神の宮とそこで礼拝する者たちを測っておられるからです」  
1893年に書かれた。「1888資料」1116、1117より。

答え：ホワイト夫人は、1893年には生ける者のさばきの最中であるということを書いておられたのでしょうか？

次に上げる引用文から、読者自ら判断して下さい。

① 1884年 預言の霊第4巻 315

「裁きは今、天の聖所で進行中である。40年もの間この働きは続けられてきた。まもなく――どれほどすみやかにかは誰も知らないが、――生ける者の番に移るであろう」

② 1888版 大争闘に同じことが書かれている。

③ 1888 エレン・G・ホワイト資料 326

「去年の冬(1888-1889)、ミネアポリス総会の間、わたしは次の様なうわさを聞いた。『ホワイト夫人は、1844年以来死んだ義人の裁きが続いていたが、今や生ける者に移ったことを示された』と。このうわさは真実ではない。同じようなうわさが、約2年間も広まっていた。スイスのパーゼルからカリフォルニアの牧師にあてて手紙を書いた。要点は次のようなことである。『死んだ義人の裁きが40年以上も続いてきた。生ける者にどれほどすみやかに移るかは、我々はわからない』と。手紙はいろんな人に読まれ、不注意に聞いた者たちが生ける者のさばきに移ったと聞きまちがえて伝え始めた。これがことの始まりである。うわさはミネアポリスからとその手紙からの引用で、同じ影響を及ぼした。これほど甚だしい根拠のないうわさはない」

④ 1900年

「今や、生ける者のさばきという大いなる働きが始まろうとするとき (is about to begin)、我々は清められないままの野心が心を占領し、この危機に備える必要のある教育を怠るように導かれていだろうか？一つ一つのケースにおいて、獣の刻印、あるいはその像を受けるか、それとも生ける神の印を受け得るかという一大決心がなされなければならない」6 T 130

⑤ 1905年 RH 119-1905

「裁きは今、天の聖所において進行中である。この働きはもう60年以上も続けられてきている。まもなく――どれほどすみやかにかは誰もわからないが――生ける者の番に移るであろう」

(15ページへ続く)



## ローマ法王教の勝利！「つむじ風の如く」

次々起こる世界情勢の変化！去卒の暮れからの激変！

### ダニエル11章40節からの預言に注目！

「終わりの時になって、南の王は北の王と戦います。．．．北の王はつむじ風のように南の王を攻め、国々に入ってみなぎりあふれ、通り過ぎるでしょう」

「南の王」＝共産勢力＝無神論勢力、「北の王」＝ローマ法王教

「ドイツ皇帝ヘンリー4世は、法王の権威をあえて無視したために、破門と廃位の宣告を受けた法王の命令に力を得て彼に反逆した諸侯達の、離反と威嚇に驚いたヘンリーは、法王と和解するの必要を感じた。彼は王妃と忠実な従者とを伴って、法王の前に身を低めるため、真冬のアルプスをこえた。グレゴリーが泊まっていた城に到着すると、王は護衛もなく外庭に案内され、その厳しい冬の寒さの中で、みすばらしい衣を着、頭には何もかぶらず、はだしのまま、法王の前に出る許可を待った。彼が3日間断食とざんげを続けた後、ようやく法王は彼に教面を与えた。そしてそれさえも、皇帝が位に復して王権を行使する前に、法王の認可を仰がねばならないという条件付きのものであった。」

大上 54

「聖ローマ皇帝ヘンリー4世（ドイツ皇帝）が、1077年に、法王グレゴリー7世の許しを求めることを決意したとき、彼は、イタリアの法王庁舎の外で、裸足で、3日間も立っていた。ゴルバチョフの教会との協定はそれほどのつらさは見られなかったが、それでもそれは非常に意義深いものであった」 TIME, 12-11, 1989

### 「新世界秩序」へ動き出す

1991年1月16日、米国はイラクに戦争を布告した。アメリカばかりではなく、「国連の決議」の名目で、28ヶ国が一体となってイラクに当たった。ブッシュ大統領は「諸国の家族」と呼んだ。大統領は演説の中で次のように言った。「これは歴史的瞬間である。我々は過去において長い間の冷戦を終わらせるのに大いに成功した。今や我々は、我々のため、また未来の世代のために新しい世界秩序を構築する機会に直面している。それは、法の規則ージャングルの法ではなくーが国々の行動を管理する世界である。我々が成功するときーまた成功するであろうがーこの新しい世界秩序が現実となる絶好のチャンスが来たのであり、これこそ国連が創設された約束とビジョンを成就して、信

頼される国連の平和管理という役割が果たされることになる秩序なのである」

今や、この「新しい世界秩序」という言葉を、日米運命共同体として、海部総理も声を合わせて歌い出した二重唱となるばかりでなく、4重唱から世界のリーダーシップのコーラスになりつつある。やがて世界政府の大合唱に盛り上がった時、指揮するのはアメリカだろうが、マネージャーは誰であろうか？ どうもバチカンようだ。

この6千年目の、最後の10年以内に？

バチカンのインサイダー、カトリックの教授、マラカイ・マーチン氏は、その著書「この血の鍵」という本に次のように書いている：

「70才未満の者達は、少なくとも新しい政府の基本構築が設置されるのを目撃するであろう。40才未満のもの達は、その立法権、行政権、司法権の権力と支配のもとに生きることは確かであろう。確かに3つのライバル自身—時がたつともっと多くなると思うが—がこの新しい世界秩序は、まだ遠い将来のことでなく、非常に差し迫ったものとしてとらえているのである。我々の内に打ちたてられるシステムとして、それは第2千年の、この最後の10年の終わりまでには成るであろう」P15、16 (The Keys of This Blood, Simon & Schuster 9-, 1990)

お分かりであろうか？ この「新しい世界秩序」、「世界政府」を打ちたてようと陰謀しているものは誰なのか？ ダニエル書、黙示録の預言の研究者であるSDAはよく知っておられると思う。ある方々は、そっくりのことを、漫画「世界を動かす男達の驚くべき構想」でご覧になったと思う。

続けて：

「ローマはかつて広い世界にわたって、その地域、地域で可能な限りの強力な支配をしていたことがあった。．．．だいたいにおいて、ある例外を除いて、200年間この世の主立った権力によって活動できないよう余儀なくされてきた」 同上p22。

ローマが活動できないようにされたその俗権とは、主に無神論権力、共産主義勢力であった。ところが「終わりの時に」 になって突然「ゴルビー、ついにローマ軍団に屈服」ということが起こったのである。(US News & World Report, 12-11, 1989)。1989年12月1日のことであった。勿論、プロテスタントもローマを阻止する勢力であったが、プロテスタントは徐々にローマに対する抵抗力を失ってきた。「プロテスタントは法王制に余計な手出しをし、後援してきた。彼らは、法王教徒自身が見て驚き、理解しかねるような妥協と譲歩をしてきた」大下322。今や、アメリカのカトリック人口は4人に一人といわれる。

### ローマの勢力を阻止してきたものが取り除かれる

この二つの反カトリック勢力が「全世界に根を張り、法王庁の支配下にあってその利害に役立つよう計画されている一大組織」(大下339)の前に崩壊したのである。もはやその勢力を阻止するのはほとんどない。「現在諸国家の政府によって課せられている数々の拘束が取り除かれ、ローマが以前の権力を取り戻すとき、たちまち圧制と迫害が復活するであろう」(大下319)との預言が成就するのである。2テサロニケ2：3～10にパウロは預言していた。「まず背教のことが起こり、不法の者、すなわち、滅びの子が現れるに違いない。彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する。．．．彼が自分に定められた時になってから現れるように、今彼を阻止しているものがある。不法の秘密の力が、すでに働いて

いるのである。ただそれは、今阻止している者が取り除かれる時までのことである。その時になると、不法の者が現れる。この者を主イエスは口の息をもって殺し、来臨の輝きによって滅ぼすであろう。」

「彼は（ヨハネ・パウロⅡ）、国際的なプロフィール（人物）という考えを法王制に与えるであろう。法王として、彼は世界の指導者、国々を歩き巡り、指導者の中の特別な指導者として自分の地位を取り戻そうとしている。その競争の中で彼は、勝利者として現れることを計画しているからである」

この血の鍵 P 480

「しかしながら、彼が最も強調していることは、人間はローマ・カトリック キリスト教の基礎においてでなければ実行可能な地政学的システムを造り出すことの信頼できる希望はない。（ローマ・カトリックを礎としてでなければ、世界が地理的、政治、経済的な統一システムを造れるはずがない。訳者解説）．．．地政学的であるためには、そこに住むすべての住民に—この場合すべての国家を意味する—対して立法権、行政権、司法権を与えられた構築でなければならない」

この血の鍵 p 492、380。

つまり、パチカンのインサイダーで、カトリックの教授である、マラカイ・マーチンによると、法王制のねらうところは世界支配なのである。

主の僕は、次のように言っている：

「この教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行なったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている」 大下321、322。

### 現代のプロテスタントはどこに？

かつて、プロテスタントは生命をかけて真理のために戦った。反カトリシズムということで、「プロテスタント」（プロテスト＝抗議する者）と言われたのである。しかし、一般キリスト教会は、バビロンの娘となったので、宗教改革者のバトンがわたされたのは、再臨運動であった。アドベンティズムと言う。そのアドベンティズムが、今日、目前に迫っている恐るべき危機に警告を発しなくなった！

「高い犠牲を払ってあがなった良心の自由に、プロテスタントが高い価値を置いた時代があった。彼らは子供たちに法王教を嫌うように教え、ローマと一致しようとすることは神に対して不忠実であると主張した」大下318。

「政治的また宗教的自由に対する最も危険な敵の進出に反対するように、人々は目覚める必要がある」 大下322

### 爆発寸前の前兆！

アドベンチストが迫り来る危機を警告しなければ誰がするだろうか？雲仙岳の爆発は今や毎日のトップニュースである。恐ろしいほどである。この自然の怒りによる惨事に「一体我々は怒りをどこにぶちまけたらいいのか？」と叫んでいた人もいた。測候所の警告を無視するとどうなるだろう？預言の民、SDAは「物見の搭」である。今や悪の勢力は結集しつつある。黙示録16。地下のマグマがその怒りを発するように、「マゴグの地のゴグ」（エゼキエル38：2）「ゴグ、マゴグ」（黙20：

8) は、神とその民に向かって、その怒りを爆発させる時が来る。かつて、中世時代に、ヨーロッパで神の民に対してローマはその怒りを爆発させた。どれほどの生命が失われたかは「審判においてはつきりさせられるまでは決して分からないほどの規模の虐殺であった」と記されている。(大下326)。サタンの勢力が動き出している。

まもなく爆発する。人間はその危機の時が来ないとなかなか動かないものである。バビロンのエルサレム攻略を涙のうちに預言したエレミヤ、またエゼキエルの声も、神の民が無視し続けたときにどんな悲劇にあったであろうか。紀元70年のエルサレム滅亡に対する主イエスの涙の警告も、その当時のセブンスデー・アドベンチストによって無視された時、どんな結果になったであろうか。ローマは「再び迫害を復活させる」のである。(大下321)。1798年以来、バチカンは休火山となっていた。「自由、平等、博愛」「人権擁護」「世界平和」「中絶反対」「軍縮」「教会一致」等の「巧言」をもって世界を一つにまとめようとしているバチカンの行動は、自分たちの「有利な立場」が得られると突然爆発する前兆なのである。(大下341)。爆発寸前の兆である煙はうっすらと昇りはじめた今、静かにその「時期を待っている」だけなのである。(大下339)

### 台風は発生した!

ダニエル11:40節に「終わりの時」になって、「北の王」ローマは、「南の王」=共産勢力を攻略していくことが描写されている。しかも「つむじ風のように」と表現されている。そして国々を制覇していくのである。この共産主義の崩壊をニューズウィーク誌は、「つむじかぜの時代」という言葉で表現しているのである。12-25, 1989。驚くべきではないか。聖書は何千年も昔に、今日のジャーナリストが表現する前に同じ言葉で諸国の激変を前もってそのように表現していたのである。

「終わりの時」とはいつの時なのか? 「北の王」とは誰なのか? 「南の王」とは誰なのか? 北の王が入ると言われている「美しい国」とはどこのことなのか? 詳しい研究は、次回にまわしたい。最も大事な預言であるだけに、ここの預言を間違えて解釈したら、弟子たちのように、1840年代の再臨信徒のように苦い経験をすることになるであろう。

世界はやつとひとつになる時が来た……

そして地球合衆国が中央政府によりすべてを統轄する

各国はそれぞれが州となり独自の刑法を認められる

中央政府がおかれる場所はローマだ

世界の急変…その一部だ

ソ連のゴルバチョフは

バチカンが30年間かけて創り上げた

最高の協力者だよそして彼も今は我々と志は同じです

すべての国境は取り払われ通貨はドルそして言語は英語に統一される

新しい秩序を生み出すためには激動こそ逆に必要な条件と書つていい

その前段階の大いなる実験だ……

E.C.Cの統合は

中東だけでは……ない……今後数年の間世界は台風の真っ只中だ

新しい秩序が生み出される時それは当然の事だ

この計画は今後10年以内に成功させなければならぬのだ

ミスター・西郷 出されたら誰も何も反論できんぞうか……

それを正義としてイラクを爆撃するの……

この問題は何よりも優先されるべき正統だ……

我々 地球の人類は……まっとうな生理を維持し続けたいまま21世紀を迎える事はないだろう

# OPUS DEI オーパス・デイ (ラテン語) 「神の御業」

## ヨハネ・パウロ II の神聖なマフィア

ローマ・カトリックの最も神秘的で、論争的になっている、また影響のある信徒の運動の一つ。その会員は74,000人と推定され、87ヶ国に広まっている。よく教育された、信徒によってほとんどが、医者、法律家、ビジネスマン、大学教授やその他の専門家(1,300人は聖職者)によって成り立っている。オーパスの会員のための999の訓言が記されている、発行人エスクリバの本「エル・カミノ」(道)は、3,300,000冊以上が35ヶ国語で印刷された。それ以外に700,000人の「協力者」と呼ばれる者たちがいて、彼らは必ずしもローマ・カトリックである必要はない。

1979年の発表によると、いろいろの仕事の他に、彼らの働きは、487の大学や学校、694の新聞社、出版社、52のTV、ラジオ局、38の広告会社、12の映画会社でなされている。しかし、彼らは直接には、出版所やニュース局などの機関を支配しているわけではない。

イタリアのある活動的な信徒は(匿名希望)、「それは社会で非常に活動しているが、オープンに、公的に、グループでなされるのではない。それは、舞台裏で、浸透し、影響を与えることを求めている者たちの組織である」

1928年、エスクリバによって創立された。今や、400年前に創設された強力なイエズス会に取って代わりつつあるという。(イエズス会については大争闘上巻p293, 294を読んで頂きたい。) CHURCH AND STATE 9-1985 より一部要約。

### Opus Dei 教会に謎の 秘密結社

先ごろミラノの週刊誌「レスプレッソ」は、「オーパス・デイ」(ラテン語で「神の御業」の意)の名で知られる超保守的かつ有力なローマカトリック組織の規約をすっぱ抜いた。

ラテン語で書かれた四百七十九項からなる規約を眺めると、上位の者が教育に口を出したり、若い未婚の会員は給料を結社に納めるなど、中世の修道院での秘密会議を連想させるものがある。

「オ」十八年前、以業(俗に身を置いたまま厳しい精神生活を実践する運動を推し進めてきた。

今日、指導者アルバロ・テル・ポルティエーヨのもとに八十七カ国、七万五千八の会員(聖職者は千三百人)がいるといわれるが、名簿や財政状況など、詳しいことは一切公開されていない。

さらに創始者ホセ・マリア・エスクリバ・デ・バラゲールが若き日のヨハネ・パウロ二世に助力したおかげで、現在オーパス・デイは教会機構のなかでも特別の地位を得ている。

ところがつい最近、教会のみならず政治にも及んできたオーパス・デイの影響力を懸念する声や、会員の内部告発を発端にしていっせいに沸き起こった。

まず、オーパス・デイは秘密結社を禁じているイタリア憲法に違反してはいないかと非難され、さらに閣僚の高級補佐官に会員がいるかもしれないという噂から、問題は国会にまで持ち込ま



ポルティエーヨ(左)は法王も動かす?



者(左端)。握手しているのは  
済宗妙心寺派の山田無文老師

社会党の重鎮リノ・フォルミカをはじめとする議員らは政府に対し同結社の調査を要請。これに対しオーパス・デイ幹部は、そのよふな調査は一切必要ないと主張している。

キリスト教民主党員のなかにも、オーパス・デイを弁護する者は少なくない。

クラクシ首相公認の調査が行われるとすれば、キリスト教民主党員で彼を支持する議員たちを怒らせることはまちがいない。が、それは同時に、イタリアを教会の影響力から切り離そうとする政府の決意の証ともなる。



## 印刷物、テープのリスト

|          |            |        |       |    |
|----------|------------|--------|-------|----|
| モーセと小羊の歌 | デイブ・ミラー著   | (郵送料共) | 1000円 |    |
| キリストとその義 | E.J. ワゴナー著 |        | 600   | 新刊 |

聖所からの光. . . . . 750  
 図解説明. . . . . 250  
 テープ. . . . . 400  
 仰いで生きよ. . . . . 50  
 ダニエル書と黙示録のテーマ. . . . . 150  
 開かれた門. . . . . 250  
 三天使の使命、1888年、そして今日 (D. K. ショート). 150  
 キリストの再臨に備える! . . . . . 60  
 生きて主を迎えることと、死んで主を迎えることの違い

サタンの畏. . TM472~475. . . . . 60  
 生ける神の印. 5T209~216、エゼキエル9章の注解 60

教会の現状の描写!

ラオデキヤ教会 3T266. . . . . 10  
 ヨシュアと天使 5T472~476. . . . . 30  
 証の軽視 5T75~83. . . . . 40  
 ふるい 1T179~181 (初代文集437~441) 20

後の雨、神の印を受ける前の経験。  
 教会の中の二つのグループ。

今!. . . . . メリイ・マックリオド著 植田正志訳. . . . 150  
 日曜休業令が出たとき、どんなことが起きるかを  
 想定して、書かれたストーリー

バチカンの世界支配陰謀 I、II テープ. . . . . 700  
 その文. . . . .

何故ユダヤ人はメシヤを拒んだのか? F.C. ギルバート . . . . 30  
 SDAに改宗したユダヤ人学者。教会学校の激しい  
 認可論争のあった頃に出されたきに出された記事

次の印刷物は、米国のミセス波平のご厚意のプレゼントです。  
 欲しい方は、郵送料とともに申込んで下さい。

田舎の生活 (Country Living) E.G. ホワイト 郵送料. 120円  
 世の終わりと獣の刻印 波平三枝子著 (伝道用) . . . . 175円  
 たくさんあります。無料で多くの人々に配布して下さい。

## 堅固土台－基礎に手を加える？

わたしは、一群の人々がしっかりと守られて堅く立ち、確立された教団の信仰をぐらつかせようとする人々には目もくれないのを示された。神は彼らをごらんになってよみされた。わたしは、第一、第二、第三天使による三段階の使命を示された。わたしにつきそっていた天使は言った。

「この使命を少しでも変える者は災いだ。この使命を本当に理解することが非常に大切だ。魂の運命は、この使命をそう受け入れるかにかかっている」わたしはふたたび三重の使命を示され、神の民がどんなに高い代価を払ってその経験を得たかを示された。それは多大な苦難と激しい戦いを経て得られたものだった。神は、彼らを一步一步導いて、ついに彼らを動くことのない堅い土台の上に置かれたのである。わたしは、各人がこの土台にやってきて、その基礎を調べるのを見た。ある者は、喜んですぐにそこにとびのった。ある者は、この基礎の欠点をさがしはじめた。彼らは、この基礎に手を加えて、もっと完全にし、人々をもっと幸福にしようと望んだ。ある者は土台から飛び降りて調べ、置き方が間違っていると断言した。初代文集 420、421

## 現代の真理の重要点から離れて話す危険

神の言葉の中には尊い真理が多く含まれている。しかし、群れが必要としているのは、「現代の真理」である。わたしは、使命者たちが、現代の真理の重要点を離れて、群れを一致させ魂を清めるのになんの役にも立たない問題を長々と話す危険を見た。

しかし、2千3百日に関連した聖所問題、また神の律法とイエス・キリストの信仰などの問題は、過去の再臨運動を説明して、われわれの現在の立場を示し、疑う者の信仰を確立し、輝かしい将来に対する確信を与えるように十分に計画されたものである。わたしはしばしばこれらが、使命者たちが詳しく話すべき重要な問題であることを見た。初代文集 137、138

- この出版物は信徒によるもので、皆様の祈りと自由献金によって続けられます。尚、資料代や献金などの送金には郵便振替をご利用ください。振替口座番号は

鹿児島 8-12121 サンライズミニストリー

です。

住所 〒905-04

沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471番地

サンライズ ミニストリー内 アンカー係

☎ 098056-2783, 5083 FAX

編集人：金城重博





ほふられたこ羊こそは、  
力と富と知恵と勢いと、ほまれと、栄光とさんびとを  
受けるにふさわしい！

## お願い！

2年間有志の方々の献金によって支えられてきたアンカーは、  
無料で配布させて頂いておりますが、このままではリストが増  
え続け、もう一度確認し、整理する必要ができました。今後  
ともアンカーを送って欲しい方は、誠にお手数ですがその旨ご  
連絡ください。知人、友人にお送りになりたい方がございま  
したら遠慮なく申し込んでください。もし、ご連絡がなければ、  
配送をストップさせて頂くこととなりますので早めによりしく  
お願いいたします。